

PM シンポジウム 2026

AI時代を切り拓くプログラム & プロジェクトマネジメント

～人が動かす、未来へつなぐ社会を創る～

9/3 Day 1 THU
9/4 Day 2 FRI

タワーホール船堀 (小ホール)

主催：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)

後援：経済産業省(METI) 予定 / 一般財団法人エンジニアリング協会(ENAA) 予定

独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO) 予定 / 独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 予定

一般社団法人 PMI 日本支部(PMIJ) 予定 特定非営利活動法人ITコーディネータ協会(ITCA) 予定

一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会(JUAS) 予定

ハイフレックス
開催

会場&ライブ配信&
オンデマンド配信

詳細はWEBページを
ご確認ください

PMシンポジウム2026大会テーマ

「AI時代を切り拓くプログラム &プロジェクトマネジメント」

～人が動かす、未来へつなぐ社会を創る～

AIが増々社会に浸透し、様々な業界・業種に適用されてきている。こうした中プロジェクト型経済活動(プロジェクトエコノミー)の普及・進展により組織横断型のプロジェクトが増え、マネジメントが増々重要になり、それに対応できるマネージャーが求められている。また一方ではマネジメントの質が変わり、課題解決型から事業価値創造型(事業価値創造(DX)、新ビジネスモデルの創造、変化へのスピード対応)に変わって来ている。

このようなAI時代に、人が動かし、未来へつなぐ社会を創るためのプログラム&プロジェクトマネジメントが求められており考察する。

PMシンポジウム2026 実行委員長からのメッセージ

今年は会場にご参加頂いた方々に向けて、リアルイベントを開催します。各種ポイント対象ではありませんが、会場では体験できないイベントです。是非とも会場に足をお運びください。

●リアルイベント

1. パネル・ディスカッションDay1、Day2のお昼休み12:00～12:30に開催。食事を摂りながらご視聴。
Day1 : AI × PM AI適用についての最新動向、AIをPMに活用する場合の課題、可能性
Day2 : P2Mの特徴とメリット、P2Mを実務に応用した事例について
2. グラフィック・レコーディング(グラレコ)作成体験会
PMAJのグラレコ・エキスパートを講師として、グラレコ作成体験会を開催します。
3. 懇親会では、各自の所属が分かる名札を付けて頂き、テーブル毎にコーナを設け初めての参加者でも知らない人同士で会話しやすくします。(ネットワーキングの場)

今年のPMシンポジウム2026ではハイフレックス開催(会場、オンライン、オンデマンド)します。今年も幅広いPM分野を網羅、ワンストップで興味・関心のある講演を選択できます。全体では、50講演用意させていただきました。

ぜひ会場のタワーホール船堀までお越しください。会場でお待ちしています。

■大会運営コンセプト

- PHASE 1 : LESSON (学び) ← 従来
個人の専門性と知見を深めるステージ
- PHASE 2 : CONNECT (繋がり) ← 今回企画
異なる視点を持つ他者と共鳴し、ネットワークを築くステージ
- PHASE 3 : BEYOND (超越・その先へ) ← 将来
繋がりの方で既存の枠組みを越え、新たな価値を創造するステージ



PMAJ副理事長兼PMシンポジウム実行委員長
早川 喜彦

各種ポイントの発行について

発行ポイントは次のとおりです。

CPU ■ Day1 : 12ポイント ■ Day2 : 12ポイント

PDU ■ Day1 : 6PDU ■ Day2 : 6PDU

PMP® 資格更新に必要なポイント(PDU)を取得できます

ITC実践力ポイント ■ Day1 : 1.5ポイント ■ Day2 : 1.5ポイント

KN-11

AIエージェントが変えるPMの未来

9:30~10:30

～企業実装の最前線から見える実践知～

一般社団法人AICX協会 代表理事

小澤 健祐 P



生成AIの急速な進化により、AIエージェントが自律的にタスクを遂行する時代が到来しました。本講演では、「人間とAIが共存する社会をつくる」をビジョンに掲げ、国内初のAIエージェント特化型業界団体であるAICX協会の代表理事として、また『AIエージェントの教科書』の著者として、AIエージェントの企業実装における最前線の知見をお伝えします。

具体的には、AIエージェントがプロジェクトマネジメントの現場にどのようなインパクトをもたらしているのか、顧客体験(CX)と業務効率の両面から実践事例を交えて解説します。50社以上の導入支援から得られた成功・失敗の教訓、人材育成の課題、そして組織変革のポイントを共有し、プロジェクトマネージャーがAIエージェント時代にどのようにリーダーシップを発揮すべきかを提言します。参加者の皆様が明日から実践できる具体的なアクションプランもお持ち帰りいただける内容です。

【講師略歴】

「人間とAIが共存する社会をつくる」をビジョンに掲げ、AI分野で幅広く活動。一般社団法人AICX協会代表理事。Cynthialy取締役CCO。著書に『生成AI導入の教科書』『AIエージェントの教科書』。年間登壇300回以上、AI関連記事1,500本以上を執筆。NewsPicksプロピッカー、AI番組「AI DIVE」メインMC。千葉県船橋市生成AIアドバイザー

KN-12

一法人一大学への道程と新大学の現在地

10:45~11:45

～「東京科学大学」統合プロジェクト～

東京科学大学 理事長

大竹 尚登 B



本プロジェクトは、歴史と伝統を有する国立大学である東京医科歯科大学と東京工業大学の統合を、約2年という非常に短期間で成し遂げたものである。本プロジェクトにより、国立大学法人東京医科歯科大学と国立大学法人東京工業大学を2024年10月に統合し、一法人一大学の道を選択して、東京科学大学(設置者:国立大学法人東京科学大学)を設立した。歯科学・理工学と異なる分野で強みを有する指定国立大学同士が統合し、統合と同時に法人名と大学名を刷新するという難易度の高いプロジェクトに、両大学の学長のもと、国内外の多様なステークホルダーの意見を聴きながら、構成員が一丸となって取り組んできた。本講演では、大学統合までの道程と、時間の壁、文化の壁、制度の壁に代表される課題、そして統合により生まれた成果を共有するとともに、新大学の現在地とビジョン駆動型の新たな教育研究の姿であるVisionary Initiativeについて述べる。

【講師略歴】

東京科学大学理事長。神奈川県横須賀市出身。東京工業大学工学部卒業。博士(工学)。東京工業大学助手、助教授、名古屋大学助教授、東京工業大学准教授、同大学教授、副学長(研究推進担当、研究企画担当)、科学技術創成研究院長を経て2024年10月に東京医科歯科大学と東京工業大学の統合により設立された東京科学大学の初代理事長に就任。専門は機械材料、機能性薄膜

KN-21

事業成長をもたらす「AI×人」プロジェクト

9:30~10:30

～PoCの壁を超えるAI活用とプロジェクト管理～

横河デジタル株式会社 取締役 副社長執行役員 IT/OTビジネス推進室長

武藤 真一 W



製造現場におけるAI活用は「期待」のフェーズから、具体的な成果を生み出す「実践」へと移行している。従来のデータに基づく改善活動に加え、現在はAIによって熟練者の操作や判断までを最適化する領域へと広がる可能性が見えてきた。こうした取り組みは、製造業が直面する深刻な人財不足を解消するだけでなく、生産性と安全性を高次元で両立させる鍵となる。本講演の前半では、製造現場でのAI活用事例として、プラント操業においてコストと品質のトレードオフを解消した事例やリードタイム短縮の事例等、合わせて弊社内でのAI活用の取り組みを紹介する。後半では、多くの企業が直面するPoC(概念実証)から先に進まない状況に対して、製造業の制御から経営まで幅広くDXプロジェクトに携わってきた弊社の経験から得られた成功のポイントや、プロジェクト管理そのものへのAI活用の可能性とプロジェクト管理のアプローチについて考察する。

【講師略歴】

1990年、横河電機入社。工場の制御システム・情報系システムの導入においてPM・SE、またERPやMESパッケージ開発を経験し、テクノロジーとプロセスに関する幅広い専門知識を培う。制約理論を活用した課題解決型コンサルおよびソリューション提供が得意。横河ソリューションサービスに本社・移籍後は、様々な業界における構想策定、生産およびサプライチェーンの改善・改革に携わる。2023年4月より、横河デジタルに合流、現職

KN-22

建設PMとDXにおける「箸とカトラリー」

10:45~11:45

～比較文化的考察から実装戦略まで～

東京都市大学 総合研究所/特任教授

矢吹 信喜 B



建設分野における工程管理ソフトウェアとして、米国ではPrimaveraが30年以上前から一般的に使用されているのに対し、日本ではEXCELでパーチャートを手描きしていることが多い。なぜ日本の建設業の技術者たちは、一つの、あるいは数少ないツールを何にでも使い、他にもっと便利なツールがあるのに使いたがらないのか疑問だった。その答えとして「箸とカトラリー(ナイフ、フォーク、スプーン等)」の違いなのではないかという仮説を立てた。しかし、それだけでは上手く説明できないこともあって、マクロ的には日米の会社におけるマネジメント手法の違いが大きいこと(しかも、ここにも別の意味で「箸とカトラリー」があること)、ミクロ的には日本の社員が便利なツールを使わない(使えない)理由があるという仮説を考察した。日本の建設分野の生産性を米国並みかそれ以上に向上させるための方策として、会社のマネジメント手法を当面あまり大きく変えずに、ITマネジメントを変える実装戦略を考案した。

【講師略歴】

1982年東京大学工学部土木工学科卒業。電源開発株式会社入社。米国スタンフォード大学大学院土木工学専攻にて1989年MS(修士)、1992年Ph.D.(博士)取得。1999年室蘭工業大学建設システム工学科助教授、准教授。2008年大阪大学大学院工学研究科環境エネルギー工学専攻教授。2025年より現職。専門は土木建築情報学。国土交通省BIM/CIM推進委員会委員

9/3
THU
Day
1

懇親会 17:50～19:00
(タワーホール船堀2階「福寿」)

- ・PMシンポジウム2026申込者は無料
- ・PMコミュニティ活性化の場としてご活用ください
- ・お申込み時に「懇親会参加」を選択ください

Live 9/3 ライブ配信 / 9/5～10/3 オンデマンド配信	
9:20～9:30	開会挨拶
9:30～10:30	基調講演 [KN-11] AIエージェントが変えるPMの未来 ～企業実装の最前線から見える実践知～ 一般社団法人AICX協会 小澤 健祐 P
10:45～11:45	基調講演 [KN-12] 一法人一大学への道程と新大学の現在地 ～「東京科学大学」統合プロジェクト～ 東京科学大学 大竹 尚登 B
12:45～13:45	主催者講演 [SP-11] エンタープライズプログラムマネジメント ～プログラムマネジメントを駆使した事業価値の創出～ イノベーションマネジメント / 日本プロジェクトマネジメント協会 芝尾 芳昭 W
14:00～15:00	特別講演 [SP-12] 100年に一度の変革期を生き抜く ～自動車業界の未来に向けて～ デンソー 山本 浩孝 B
15:15～16:15	特別講演 [SP-13] 新たな価値とビジネス機会の創出 ～国内初となるSAF製造実用化を通じて～ 日揮ホールディングス 西村 勇毅 P
16:30～17:30	特別講演 [SP-14] AI時代の企業戦略とエンジニアリングの未来 ～富士通が実践する、顧客価値最大化のためのAI革新～ 富士通 岡田 英人 W

一般講演 9/3～10/3 オンデマンド配信

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践 [A-01] P2Mと共に職業人生を歩んできた ～仕事の重要ツールであり、研究の対象でもある～ 早稲田大学 岡田 久典 W	[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践 [A-02] P2Mを活用した戦略的事業推進 ～不確実な時代における持続的事業拡大の実現に向けて～ 三機工業 岩元 信一 B	[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践 [A-03] AIを活用するP2Mの可能性 ～AI時代のP2Mはどう進化すべきか?～ PMAJ会員活動 APC 林 健太郎 W	[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践 [A-04] P2Mガイドブック改訂4版の改訂コンセプトを学ぶ ～P2M事業モデルと継続的価値提供を考える～ PMAJ会員活動 P2M標準ガイドブック改訂4版を学ぶSIG 住田 秀司 W
[PM] プロジェクトマネジメント実践 [A-05] ヒト細胞スケールアップ培養工程開発の効率化を目指したDX利用共創プロジェクトの紹介 千代田化工建設 能見 淑子 W	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [A-06] 小型月着陸実証機SLIMの成果とプロジェクトの振り返り、そして今後の月惑星探査 宇宙航空研究開発機構 榎木 賢一 P	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-07] ローカルAIエージェント時代、PMはどうプロジェクトを設計し直すのか ～個人PCで働くエージェントと、人とAIの新しい協働～ PMAJ会員活動 Wtech SIG 石川 博子 P	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [A-08] PMIの最新動向から読み解くPMBOK 8版の概要紹介 PMAJ会員活動 PM研究・研修部会 羽佐間 一潮 W
[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [A-09] AI時代の企業価値を支える「AI倫理」 ～富士通におけるAI倫理ガバナンスの実践～ 富士通 荒堀 淳一 B	[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [A-10] プロセス産業へのAI技術適用の今と将来 ～どのようにAIを適用し成果は何か、今後は?～ 横河デジタル 小淵 恵一郎 W	[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [A-11] プロジェクトマネジメントの傲慢と未来 ～なぜ若手、女性PMが少ないのか。優秀なPMを増やす再現可能な方法～ FPTソフトウェアジャパン 河路 裕司 P	[HR] 人材育成・働き方改革 [A-12] プロジェクトの成否を握るのは「人」! そのマネジメントに必要なものとは? ～PM強化に向けたAI活用を含めて～ PMつむぎ舎 木村 利昭 P
[HR] 人材育成・働き方改革 [A-13] AI時代のPMリスクリング ～「型」の標準化と非認知能力が導く社会価値創造への伴走～ マネジメントソリューションズ 横地 真吾 / 佐藤 美穂 P	[HR] 人材育成・働き方改革 [A-14] プロマネやるなら知らなきゃ損! ～若手SE向けPMノウハウ伝播・伝承活動を通じて～ PMマイスター 前田 修 W	[HR] 人材育成・働き方改革 [A-15] マネジメント系社会人博士育成に関する取り組みの紹介 PMAJ会員活動 博士人材と指導教員の醸成SIG 白井 久美子 P	[HR] 人材育成・働き方改革 [A-16] AI時代を生きる子どもたちの育成 ～テニスを通して育む主体性・創造性・協調性と地域の役割～ 特定非営利活動法人TTCあいち 渡邊 統史 P
[HS] ヒューマンスキル [A-17] 組織マネジメントにおけるリーダーのあり方 ～AI時代に必要な感情マネジメント～ アグレックス 紙谷 昌弘 P	[IN] イノベーション [A-18] オープンイノベーションの進化による新たな価値創造 ～点と点を紡ぎ英知を巡らせるには～ 富士通 浮田 博文 B	[SS] 社会課題解決 [A-19] 富士通が描くヘルスケアAIエコシステムの未来 ～AIエージェントによる業務変革の実践～ 富士通Japan 勝田 江朗 W	

Day1/Day2共通 9/3～10/3 オンデマンド配信 (本シンポジウムにお申込みされた方は、皆様ご視聴頂けます) *ポイントの付与はありません

[EX-01] Oracle Primavera Cloudを活用したキャパシティ管理 ～不確実性 / 人材制約 / マルチプロジェクト時代の管理～ TIS千代田システムズ 吉田 和弘	[EX-02] 自走するチームをプロデュースしよう ～疲弊しない / させない、次世代PM像の提言～ アジャイルウェア 小林 稔央	[EX-03] P2Mのプロジェクトマネジメント資格をとうろう! ～P2M資格 (PMC, PMS) と対策講座のご紹介 パナソニック デジタル 中島 貴代子	[EX-04] 設計される知性、進化する組織 ～人間とAIエージェントの協働設計が生まれ出す、共知組織の競争優位～ 電脳バンク 浦田 敏
--	---	---	--

9/4

FRI

Day 2

Live 9/4 ライブ配信 / 9/6~10/3 オンデマンド配信	
9:30~10:30	基調講演 [KN-21] 事業成長をもたらす「AI × 人」プロジェクト ~PoCの壁を超えるAI活用とプロジェクト管理~ 横河デジタル 武藤 真一 W
10:45~11:45	基調講演 [KN-22] 建設PMとDXにおける「箸とカトラリー」 ~比較文化的考察から実装戦略まで~ 東京都市大学 矢吹 信喜 B
12:45~13:45	特別講演 [SP-21] ビジョンを社会実装する価値創造OS「P2M」 ~生成AIが加速させる実務家博士(DBA)の育成~ 国際P2M学会 亀山 秀雄 B
14:00~15:00	特別講演 [SP-22] AI時代のPMに必要な「つながる力」 ~製薬業界の企業の壁を越えた実践型コミュニティ~ ノバルティスファーマ / キッセイ薬品工業 篠崎 文弘 / 河合 明日香 P
15:15~16:15	特別講演 [SP-23] 失敗しない「人と組織」 ~組織文化の劣化が生む事故・不祥事への本質的対策~ 元・東京電力HD 小池 明男 P
16:30~17:30	特別講演 [SP-24] アルマ望遠鏡で見るAI時代の学術プロジェクト ~知の探求における価値の源泉を考える~ 自然科学研究機構国立天文台 菊池 健一 W

一般講演 9/4~10/3 オンデマンド配信


[PR] プログラムマネジメント(P2M) 実践 [B-01] 航空・宇宙製品開発におけるプロジェクトマネジメント ~機械製品(プロダクト)はプログラムそのもの~ 第一システムエンジニアリング 浦 広道 W	[PR] プログラムマネジメント(P2M) 実践 [B-02] 大学の医薬品実用化研究を担うプロジェクトマネジャーの役割と育成 藤田医科大学 菊地 佳代子 W	[PR] プログラムマネジメント(P2M) 実践 [B-03] PMAJのオリジナルであるP2Mを多くの人に活用していただくには ~P2Mの普及推進の課題と取り組みについて~ PMAJ会員活動 P2M普及・推進部会 藤澤 正則 P	[PR] プログラムマネジメント(P2M) 実践 [B-04] 「個」のチャレンジを「面」の進化へ ~プロジェクト統合で拓く、新サービス創出のヒント~ ビジネスエンジニアリング 浅井 守 B
[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-05] 全ミニPM時代におけるPMの役割 ~AI時代に必要な能力と考え方~ ジゴワッツ 下岡 優斗 P	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-06] 行政プロジェクトを動かす「組織と情報」の設計術 ~構造化と心理的安全性で現場が変わる~ デジタル庁 佐藤 友莉 P	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-07] プロジェクト変革:北米最新動向と日本に適したアプローチ ~生産性向上の最新手法AWP・PMDXの可能性~ PMAJ会員活動 PMDX-AWP SIG 高橋 良宜 W	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-08] 人は増やさず品質を上げる! 難局打開の力 ~AI技術論だけではない、普遍的なPMの介在価値~ 人材サービス企業勤務 加藤 壮一 W
[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-09] 人起点発想によるAI共創DX ~AI活用は価値創出段階に~ Ridgelinez 伊藤 清隆 P	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-10] アジャイルをチームから組織へ ~日本の特性を生かす組織アジリティの向上~ PMAJ会員活動 組織アジリティSIG 小原 由紀夫 W	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-11] 『秘密のエピソード』から学ぶ共創の秘訣 ~『ものがたり』研究会・創刊号の紹介~ PMAJ会員活動 PMノウハウ継承研究会SIG 藤曲 亜樹子/新谷 幸弘/水村 泰明/中谷 一樹/吉野 均 W	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-12] 国連・欧州標準PRINCE2の最新動向と大規模アジャイル実践事例 PMAJ会員活動 PM研究・研修部会 尾形 順一 W
[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [B-13] データとAIで進化するプロジェクトマネージャー育成 富士通 伊藤 健太郎 P	[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [B-14] 生成AIを活用したサービスデスク変革 ~実践事例から学ぶアプローチ~ エフサステクノロジーズ 山日 麻衣 W	[HR] 人材育成・働き方改革 [B-15] プロジェクト成功率を高める「第三者俯瞰支援」の仕組み ~プロジェクトメンター導入戦略~ プロジェクトメンターコンサルティング 加藤 裕昭 P	[HR] 人材育成・働き方改革 [B-16] 教育現場における次世代リーダー育成 ~日米を拠点にした変革人材育成の実践~ アバナード 日野 紀子 B
[HR] 人材育成・働き方改革 [B-17] 事業やプロジェクトのチームワークが苦しくなる理由と方策 ~心理的安全性のその先へ~ 一般社団法人リプロキャリア 平 陽子 P	[HS] ヒューマンスキル [B-18] ユーザーの真のニーズを解明せよ! ~要求定義の確度向上アプローチと実務適用~ 住友ファーマ 坂本 光 B	[HS] ヒューマンスキル [B-19] ステークホルダーのエンゲージメントを高める ~影響力の法則(R)によるステークホルダーマネジメント~ プロジェクトマネジメントオフィス 鈴木 道代 P	

[EX-05] AI時代におけるPM教育 ~PM知識教育と非認知教育の実践~ マネジメントソリューションズ 横地 真吾/佐藤 美穂	[EX-06] AIによるプロジェクトマネジメント革新 ~プロジェクトマネジメントへのAI適用は何を変えるのか~ プラニスウェア・ジャパン 杉浦 宏実	[EX-07] マイプログラムのすゝめ! ~自分の人生をプログラムマネジメントしてみませんか~ 日本プロジェクトマネジメント協会 加藤 亨
--	--	--

主催者講演 SP-11 エンタープライズプログラムマネジメント

～プログラムマネジメントを駆使した事業価値の創出～

12:45～13:45

イノベーションマネジメント株式会社 代表取締役社長／
日本プロジェクトマネジメント協会 副理事長芝尾 芳昭 

P2Mのプログラムマネジメントは海外でも高い評価を得ているが、日本におけるプログラムマネジメントの活用は欧米や中国に比べてもそれほど進んでいるとは言えない。一方、VUCAの時代においてマネジメントの潮流は目標達成から価値創出にシフトしてきており、価値創出を実現するためのマネジメントへの期待は大きい。この時代背景の中でプログラムマネジメントの重要性はグローバルで高まってきており、多

くの企業が事業レベルでプログラムマネジメントの実践をとおして事業価値創出の取組みを活性化してきている。本講演ではプログラムマネジメントを事業レベルで実践し、事業の価値創造を実現する“エンタープライズプログラムマネジメント”の新たな概念とともに、その実践に取り組んでいるいくつかの企業の事例も含めて解説する。


【講師略歴】

1981年三井海洋開発入社後、複数の国内・海外プロジェクトに従事、1988年アルテミスインターナショナル入社以降、PwCコンサルティング戦略グループディレクター、IBMライフサイエンス事業部パートナーとしてプロジェクトマネジメントに関わる数多くのコンサルティンに従事。2010年イノベーションマネジメント(株)を設立し代表取締役社長に就任し現在に至る。PMAJ副理事長、P2Mガイドブック第4版改訂委員会副委員長、経営博士(大阪大学)

特別講演 SP-12 100年に一度の変革期を生き抜く

～自動車業界の未来に向けて～

14:00～15:00

株式会社デンソー
執行幹部 セーフティシステム事業部 統括部長山本 浩孝 

「100年に一度の変革期」と言われるこの時代に、私たちが何を考え、どう動くべきかを、自動車業界の視点からお話ししつつ、他の業界の皆さまとも共通する示唆を共有できればと思います。CASE(Connected, Autonomous, Shared, Electric)・SDV(Software Defined Vehicle)・カーボンニュートラルなど、業界構造そのもの

が根底から変わろうとしています。変化を「脅威」と捉えるか、「機会」と捉えるかが、企業の未来を分けると言っても過言ではない状況です。戦略・技術・人材・協業など多面的な視点で自動車業界に求められることについて考えます。


【講師略歴】

1998年(株)デンソーに入社し、エンジン制御、ソフトプラットフォームなどの量産ソフトウェアを中心に開発・設計を担当。2016年からクルマ全体の電子システムの戦略および企画を担当し、デンソーグループ全体の次世代ECU*企画を推進。2023年に発足した電子システム統括部の統括部長を歴任し、現在はセーフティシステム事業部 統括部長として、制御・電子システム開発領域を統括。*Electronic Control Unit

特別講演 SP-13 新たな価値とビジネス機会の創出

～国内初となるSAF製造実用化を通じて～

15:15～16:15

日揮ホールディングス株式会社
サステナビリティ協創ユニットエネルギーイノベーションユニット部長代行西村 勇毅 

弊社は中期経営計画において2021年度から2025年度までを挑戦の5年間と位置づけ、将来の「成長エンジンの確立」などを重点戦略とす中で新規事業の開発に取り組んできた。その成果としてパートナー企業と共に合同会社SAFFAIRE SKY ENERGYを設立、大阪府堺市にSAFの製造装置を建設して2025年に国内初となるSAF製造実用化を達成した。本事業は弊社にとっても燃料製造事業という全く新規

の事業領域であることに加えて、我が国としても初となるSAF製造の実用化であり事業開発のハードルは非常に高かった。この実現に至った背景や、これまでの困難・課題等について解説する。


【講師略歴】

2006年に日揮株式会社入社。入社以来石油精製プラントの設計に従事し、海外を中心に多くのプロジェクトにおいてプロセスリードエンジニアを担当。2019年よりサステナビリティ協創部に異動。2022年より合同会社SAFFAIRE SKY ENERGYにて最高執行責任者を務める

特別講演 SP-14 AI時代の企業戦略とエンジニアリングの未来

～富士通が実践する、顧客価値最大化のためのAI革新～

16:30～17:30

富士通株式会社
AI Innovation Center長岡田 英人 

激変するAI社会において、企業がどのように新たな価値を創造し、お客様にとっての価値を最大化していくか、その解を得ていくため、富士通が取り組むAIビジネスの現状を、豊富な事例を交えてお話しします。富士通はAIを単なるツールとしてではなく、企業活動全体の変革ドライバーと位置づけ、AIによる業務改革を実現しています。特に、レガシーシステムの改修や開発プロセス全体をAIで自動化する「AI-Ready

Engineering」という概念は、多くのマネージャー層が直面する課題への重要なアプローチと言えるでしょう。AI時代の企業戦略、エンジニアリングの未来、そして組織変革のヒントをお伝えします。

【講師略歴】

岡田 英人は富士通株式会社のSVPでありAI Innovation Center長です。ソフトウェアエンジニアリングとプロジェクト管理における30年以上の経験を持ち、富士通が提供する先進技術をグローバルで戦略的に事業展開する仕掛け作りを担うとともに、同社の存在感を高めてきました。2026年4月よりAI Innovation Center長として、AIの積極的な活用によるシステム開発の変革を牽引しています

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

A-01

P2Mと共に職業人生を歩んできた
～仕事の重要ツールであり、研究の対象でもある～



早稲田大学 環境総合研究センター上級研究員(教授級) /
AEONTOWAリサーチセンター副代表

岡田 久典 W

金融・情報・流通・環境・地域活性化等の新規業務開発、社会技術分野の大型研究開発案件等多様な分野を歩んできた。現在大学で15年ほど、複数のグローバル企業と、地域産官学民連携プラットフォームの設立・運営に携わり、P2Mを中心とした教育も行っている。P2Mは私の職業人生そのものであり、研究の対象でもある。博士学位もP2Mで取得した。「統合美装・社会価値の創出」とともにあった私のP2M人生を俯瞰し、恐らく私の最後の仕事になるであろう、P2Mを中核とした大学院大学の設置構想を通して、大学実務家教員への誘い(博士号取得のノウハウ)も含めて、皆様の参考となる情報を提供したい。

【講師略歴】

熱帯農学専攻修士→都市銀行のシンクタンクで21世紀社会システム研究チームリーダー等歴任→NPO等起業を経て、約15年大学で地域産官学民連携プログラムのGMとして活動。早稲田大学環境総合研究センター上級研究員(教授級)。国際P2M学会理事・社会システムマネジメント研究会会長。国や自治体の各種委員を歴任。博士(工学)

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

A-02

P2Mを活用した戦略的事業推進
～不確実な時代における持続的事業拡大の実現に向けて～



三機工業株式会社
ファシリティシステム事業部 理事/副事業部長

岩元 信一 B

三機工業ファシリティシステム事業部はオフィスに関わるプロジェクト管理をお客様に代わって遂行するプロジェクトマネジメントサービス事業者です。約37年に渡り事業を推進してきましたが、昨今事業環境が目まぐるしく変化していると感じます。皆様も働き方や環境が大きく変わってきたと感じていることでしょうか。企業文化、働くことに対する価値観、全てが変化多様化しています。グローバル化も更に進むでしょう。不確実で常に変化していく時代の中で未来へ向けて事業を継続的に成長させるためにはどうすれば良いか。正解の無い問いではありますが私なりの体系的考え方を一例として紹介いたします。

【講師略歴】

1995年入社 電気設備工事の現場管理を担当。2000年より現ファシリティシステム事業部へ配属となり本社オフィス移転プロジェクトや企業合併のプロジェクトマネジメント業務を担当。ワークスタイル改革などのコンサルティング業務開発責任者を歴任。「働く人、働く場所」に関するトータルサービス提供を目指し奮闘中

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

A-03

AIを活用するP2Mの可能性
～AI時代のP2Mはどう進化すべきか?～



PMAJ会員活動
APC (Advanced PMR Club)

林 健太郎 W

近年爆発的に進化したAI技術は、社会のあらゆる領域に入り込みつつあり、もはや「AIを使うかどうか」ではなく、「AIが前提となった世界で、どのように価値を生み出すのか」が問われる時代が到来している。Advanced PMR Clubは2018年の結成以来、P2Mの可能性を探求し、実践に根ざした提案を継続してきた。本講演では、
・世界のPMコミュニティでの取り組み
・日本のPMコミュニティでの取り組み
を紹介したうえで、APCで議論された
・P2MにおいてAIを活用する方法(特にプログラムマネジメント)
を提示する。

【講師略歴】

1988年工学修士取得後、建設会社に入社。2017年PMRを取得し、2018年にPMR有志でAPCを結成。2019年からPMシンポジウムでプログラムマネジメント実践事例に関する発信を継続している

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

A-04

P2Mガイドブック改訂4版の改訂コンセプトを学ぶ
～P2M事業モデルと継続的価値提供を考える～



PMAJ会員活動
P2M標準ガイドブック改訂4版を学ぶSIG

住田 秀司 W

P2M標準ガイドブック改訂4版(以下、P2M改訂4版)では、価値共創のマネジメントの流れと、3Sモデルプロジェクトのライフサイクルとの関係性を明確に示すために、両者を統合した「P2M事業モデル」を新たに定義し、そのモデルの上で、実施すべきプロセスを明確に解説することで、プログラムマネジメントを実務に適用する際のポイントを明らかにしている。本講演では、2025年1月より開始した「P2M改訂4版を学ぶSIG」での議論を踏まえて、ペンタスロンモデルを活用した「P2M事業モデル」のコンセプトと、継続的価値提供に向けたプログラム・プロジェクトマネジメントの活用方法について解説する。

【講師略歴】

1984年3月大学院修了(薬学修士)後、同年4月に中外製薬株式会社に入社。同社にて、CMC開発、PM/PMO、信頼性保証を担当し、2024年8月に退職。現在は、個人コンサルタントとして、P&MやPMに関するセミナー講師やQMSに関する企業支援を行うとともに、P2M標準ガイドブック改訂4版を学ぶSIGの代表として活動中。PMS保有

[PM] プロジェクトマネジメント実践

A-05

ヒト細胞スケールアップ培養工程開発の効率化を目指したDX利用共創プロジェクトの紹介



千代田化工建設
ライフサイエンス事業部 バイオ・医薬事業セクション SL

能見 淑子 W

再生医療の産業化には、安全性・機能性を担保したヒト細胞大量培養技術と、製造プロセスの効率化による低コスト化が不可欠である。本取り組みでは、ヒト細胞の3D培養を軸に4社が連携し、従来の実験データとCFD・AIを活用したデジタルツインによりスケールアップ培養技術の確立を目指している。千代田化工建設は細胞の分析評価およびCFD・AI活用を担い、異分野技術を統合しながらプロジェクトを推進している。本発表では、進行中プロジェクトにおける実践的な技術統合の取り組みを紹介する。

【講師略歴】

再生医療分野を中心に、研究開発、GMP/GCTPプロセス構築、製造施設設計、臨床開発、薬事対応、事業開発まで幅広く経験。欧州での多施設臨床試験や国際標準化にも携わり、現在は千代田化工建設株式会社にて、再生医療等製品などの製造プロセス構築や分析法開発/バリデーション支援に関する新規事業開発を推進

[PM] プロジェクトマネジメント実践

A-06

小型月着陸実証機 SLIMの成果とプロジェクトの振り返り、そして今後の月惑星探査



宇宙航空研究開発機構
宇宙探査イノベーションハブ 副ハブ長

榎木 賢一 P

小型月着陸実証機SLIMは、2024年1月20日に日本初となる月面軟着陸を成し遂げた。これは“精度100m以内での高精度着陸”を“小型軽量の探査機”で世界に先駆けて実現したものである。加えて着陸直前に分離した2基の小型探査ローバによる月面画像の撮影、搭載のマルチバンド分光カメラにより月の起源に迫る理学観測データ取得をも完了した。更に月面上での越夜を3度も達成する等、プロジェクトはエクストラサクセスを越えた成果を得た。本講演では、SLIMが成し遂げた成果に加え、プロジェクトマネジメントの観点、人材育成や広報・アウトリーチ活動の視点からの総括、振り返りについて紹介する。

【講師略歴】

1992年にJAXA前身の宇宙開発事業団(NASDA)に入社。技術試験衛星VII型の開発、研究開発部門などを経て2012年より、はやぶさ2プロジェクトファンクションマネージャ、2016年から2024年までSLIMプロジェクトのサブマネージャとして探査機開発、マネジメント業務に従事。SLIMミッション完遂を見届け2025年1月より現職

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-07

ローカルAIエージェント時代、PMは どうプロジェクトを設計し直すのか

～個人PCで動くエージェントと、人とAIの
新しい協働～



PMAJ会員活動
Wtech SIG

石川 博子 P

2026年、AIはチャットで答える存在から、ローカルPC上で実際に動きます。エージェントが複数のツールやアプリをまたいで動くようになれば、従来は人が暗黙知として担ってきた判断、確認、調整、引き継ぎのあり方も見直しを迫られます。OpenClawのような実例を踏まえ、本講演では、画面操作や定型業務まで担うAIエージェントが、プロジェクトの進め方そのものと、PMの仕事・責任をどう変えるかを問います。AIをどう使うかではなく、AIと共にどうプロジェクトを設計し直すか。責任境界やセキュリティも含め、「どこまで任せ、どこを人が担うか」を考えるための具体的な事例と実践的な視点を提示します。

[講師略歴]

福岡大学工学部電子工学科を卒業し、ゲームメーカーへ就職。ゲームメーカーでは、企画開発およびソフト開発に従事。退職後、エンジニアのフリーランスとして活躍。1998年6月に株式会社エイチアイ・シスを設立。半導体装置開発からWebアプリ開発、AIプロジェクトなどSE、PMとして幅広く数多くのプロジェクトで活躍

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-08

PMIの最新動向から読み解く PMBOK8版の概要紹介



PMAJ会員活動
PM研究・研修部会

羽佐間 一潮 W

昨年PMIが米国アリゾナ・フェニックスで開催したグローバルサミットで発表したプロジェクト専門家が担うべきテーマからPMBOK8版の読み解き方を解説する。PMIの見解では2030年までにプロジェクトマネジメント業務の80%がAIにより自動化される。今後プロジェクトの専門家は「プロジェクトの管理領域」から戦略価値の創出、意思決定の支援、変革への推進にシフトすべき。また、価値を実現するための行動原則としてM.O.R.Eを発表した。このPMIの文脈からPMBOKが提唱する価値の実現とPMBOKガイドの読み解き方を本講演で紹介する。

[講師略歴]

保険業界向けシステム開発を中心に国内外のITベンダーで創業プロジェクトや新規開発プロジェクトを主導後、45歳でユーザー系システム会社に転職。海外現法設立プロジェクトや大規模SCRUMプロジェクト、米国企業とのジョイント事業設立支援などを主導し、2019年に独立。現在、ユーザー企業内でPMO業務を提供中

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-09

AI時代の企業価値を支える「AI倫理」

～富士通におけるAI倫理ガバナンスの実践～



富士通株式会社
AIインテグリティセンター長

荒堀 淳一 B

近年、企業活動のさまざまな場面でAI活用が広がる一方、企業はAIの技術的特性に起因するリスクへの対応が求められている。こうしたAIリスクへの対処として世界各国で法整備が進むものの、ルールの遵守だけでは解決できない課題もあり、AI活用には「AI倫理」の視点が不可欠である。本講演では、従来のIT統制だけでは捉えきれないAI特有のリスクを踏まえ、AI活用においてAI倫理が果たす役割とその重要性を解説する。富士通では、長年「AI倫理ガバナンス」に取り組む、AI活用の仕組みづくりを進めてきた。本講演では、これまでの当社の実践知を踏まえ、企業が取り組むべきAI倫理を考察する。

[講師略歴]

富士通株式会社AIインテグリティセンター長。富士通におけるAI倫理の社内実装やAIリスクマネジメント統制を主導するとともに、総務省AIネットワーク社会推進会議AIガバナンス検討会構成員や経団連AI活用戦略タスクフォース委員などを務め、AIをはじめとする最新技術に対する社会の信頼を確保するための施策に取組む

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-10

プロセス産業へのAI技術適用の 今までと将来

～どのようにAIを適用し成果は何か、今後は？～



横河デジタル株式会社
AIシニアコンサルタント

小淵 恵一郎 W

2015年、Google DeepMindのAlphaGoが人間のプロ囲碁棋士をハンデなしで破った前後から、AI技術は様々な分野に適用され、現在では様々な分野で多くの成果が報告されている。このような流れの中で、プロセス産業分野でもAI技術の適用が進んできた。この産業分野では安全が最優先であることから、特に制御領域へのAI技術適用には、多くの困難が存在している。ここでは、プロセス産業分野の制御領域でのAI技術適用において、どのように困難を乗り越えてきたかを振り返る。更に、今後向かう方向についての弊社の考え方をお話する。

[講師略歴]

1987年 横河電機株式会社入社。計測機器・工業用ソフトウェアの開発およびフィールド通信国際標準化活動に従事。2013年ごろ、AI開発部署をリードし、AIデータ解析、AI制御に挑戦。2022年 横河デジタル設立に伴い出向し、DXサービス事業部長、2024年 現職。2025.04～2027.03 国立大学法人 東京科学大学 非常勤講師

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-11

プロジェクトマネジメントの傲慢と未来

～なぜ若手、女性PMが少ないのか。
優秀なPMを増やす再現可能な方法～



FPTソフトウェアジャパン株式会社

河路 裕司 P

PMIは2035年にプロジェクトマネジメントの専門家が約3,000万人不足としている。最大の問題は日本では更にずっと深刻になっていることだ。気づけば周りはオジサンPMばかり。なぜ日本のPM業界はこれほどまでに若手、女性PMが少ないのだろうか？ 当講演ではこの原因を深掘りし、それを打開する全く新しいPM育成方法を提案する。今までPM育成は現場経験に頼りきりで成長するかどうかは個人の資質次第だった。だから、優秀なPMは勝手に育った一握りだけという現状を招いた。今こそ再現性のある育成方法が必要だ。最新PMBOK第8版で整備された原理原則を基にプロジェクトマネージャーの判断を変える行動原理の本質を導く。

[講師略歴]

1990年よりメガバンクのシステム開発に従事。2003年よりトヨタシステムズにてウォーターフォール型の大規模プロジェクトのPMを歴任。2016年よりアジャイルコーチも業務し両利きのPMとして活躍。また組織PMOのリーダーとして若手中堅のPMの育成、支援、PM標準策定に従事。近年はITエンジニアの人材育成や評価の企画・推進も担っている

[HR] 人材育成・働き方改革

A-12

プロジェクトの成否を握るのは「人」！ そのマネジメントに必要なものは？

～PM強化に向けたAI活用を含めて～



PMつむぎ舎
代表

木村 利昭 P

プロジェクトは最終的に「人」によって推進される。そのため、プロジェクトマネジメントは、人を理解し、人を動かすことに加え、マネージャー自身の個性も意識していく必要がある。しかし、ステークホルダの思いや認識、メンバーのモチベーションなど、人に関わる要素は見えにくく、マネジメントを難しくしている。本講演では、PMOとして様々なプロジェクトを俯瞰してきた経験をもとに、人を意識したプロジェクトマネジメントに必要な観点を整理する。さらに、プロジェクトマネージャー個人では捉えきれない気づきを得る手段としてのAI活用についても触れ、実践的な示唆を提示する。

[講師略歴]

日立製作所へ入社後、大規模プロジェクトのPMを対応し、その後に事業部内の全プロジェクトを統率するPMO長として約300プロジェクトのPMのサポート/指導を行ってきた。その経験から社内研修講師に加え、社外10数社のセミナー講師など、幅広くプロジェクトマネジメント活動を行ってきた。現在は日立製作所を退職し、4月から個人事業を立ち上げた

【HR】人財育成・働き方改革

A-13

AI時代のPMリスクリング
～「型」の標準化と非認知能力が導く
社会価値創造への伴走～



株式会社マネジメントソリューションズ
PM事業本部 品質横断グループ

横地 真吾 / 佐藤 美穂 P

AIがプロジェクト管理の定型業務を代替する時代、プロジェクトマネジャーはどのような価値を創出するべきか。マネジメントの質がAI時代に求められる「人間力」の本質を深掘りする。膨大なデータに基づく最適解が容易に得られる現代において、最後にプロジェクトを動かすのは、関係者の想いを束ね、不確実な未来へ踏み出す「人間ならではの動きかけ」に他ならない。本講演では、株式会社マネジメントソリューションズが多くの現場で培った「伴走型支援」と「研修サービス」の知見から、これからのPMに求められる社会を創るためのマインドセットと事業価値創造を支える次世代PMOのあり方を提示する。

【講師略歴】

横地 真吾: (株)マネジメントソリューションズ 品質横断グループ、元トレーニング事業部長。大規模SEを経て2011年入社。多業種のPM実行支援やPMO認定制度設立を牽引。現在は、PM実践力向上と全社的な品質強化を担っている
佐藤 美穂: 同所属。現場でのPM支援実績を強みに研修開発や講師に従事

【HR】人財育成・働き方改革

A-14

プロマネやるなら知らなきゃ損! 損!
～若手SE向けPMノウハウ伝播・伝承活動を通じて～



PMマイスター
PM Office 代表

前田 修 W

これまで多くのSE諸氏にPMノウハウの伝播・伝承をしている立場から、私見を述べたい。現状プロジェクトの成功率が物足りない現状を憂い、失敗プロジェクトに陥らないための最低限のノウハウとその方法を伝えたい。
その1: PM育成には組織がキチンと段階を踏まえて育成すること
その2: 講演で述べる段階的なPMノウハウを身に付けること
その3: 育成のためのフォローアップを着実に行うこと
これら3点が実践出来れば失敗プロジェクトは必ず減らせるはずである。多くの経営層が経営課題として人材育成を高く掲げており、それに応えるためにも、このような取り組みにもっと組織として真剣に取り組むべきと考える。

【講師略歴】

1973年 富士通株式会社に入社。汎用コンピュータのCPU設計を担当。1985年 システム部門に転属し、大・中規模のSIプロジェクトを複数経験。1998年～ PMO活動を全国展開。2014年～ 富士通退職後、プロマネ研修の講師を实践中。2021年 PMAJ 優秀貢献賞受賞。2023年 PMAJ 副理事長就任。2023年 PMマイスター称号授与。PMS / PMP資格保有。公認システム監査人

【HR】人財育成・働き方改革

A-15

マネジメント系社会人博士育成に関する
取り組みの紹介



PMAJ会員活動
博士人材と指導教員の醸成SIG

白井 久美子 P

「博士人材と指導教員の醸成SIG(Specific Interest Group)」による「マネジメント系社会人博士育成システム」の新規・独創・革新性について報告する。PMAJは、前記SIGを組織・機能として主導し、国際P2M学会との協働体制により当該システムを設計・実装・運営している。国内外の博士人材育成制度やシステム、現存の高等教育機関や内閣府SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)による博士人材育成施策との比較に関する記述は、5種の生成AIによる調査分析結果に基づいている。当該システムは、民間・学協会連携によるソーシャル・キャピタルと先端技術(生成AI)を活用した組織・支援機能・指導・運営メカニズムを実装し、過去に類を見ない世界初で革新性に優れ実効性の高いシステムと言える。

【講師略歴】

BIPROGYグループ(旧 日本ユニシスグループ)にて、ICTエンジニアとして入社。多数現場PMを経験後、ラーニング株式会社 取締役社長CEO、BIPROGY株式会社 人財育成部長、総合技術研究所.NETセンター、技術統括部長、組織開発部長、執行役員業務部門役員、CRMO、CISO、CPO、執行役員人事部門役員・人事部長、グローバルビジネス部門役員・グローバルビジネス部長、ユニアデックス株式会社 常務執行役員CISO、CPOを歴任。現任:株式会社明電舎 社外取締役、株式会社栗本鐵工所 社外 取締役、内閣府SIPビューアビューアー、日本プロジェクトマネジメント協会 副理事長、国際P2M学会 副会長

【HR】人財育成・働き方改革

A-16

AI時代を生きる子どもたちの育成
～テニスを通して育む主体性・創造性・協調性と地域の
役割～



特定非営利活動法人TTCあいち
理事長

渡邊 紘史 P

「子どもは国の宝」であり、AI時代において子どもが育まれる環境の重要性はさらに高まっている。これからは知識だけではなく、主体性・創造性・協調性といった人間ならではの力が求められる。そのためには挑戦や失敗を通して成長できる環境づくりが不可欠である。本講演では、私がテニスを通して関わってきた子どもたちの姿や、共に実践してきた取り組みを紹介する。スポーツというリアルな体験の中でAI時代にも通用する力がどのように育まれていくのかを共有したい。そして、地域と共に子どもを育てるという視点から、これからの時代にふさわしい育成環境のあり方について考えていきたい。

【講師略歴】

22歳までテニス選手として活動し、30歳からテニスコーチとしてのキャリアを形成する。子どもたちと世界を飛び回りテニスを通じて子どもたちが豊かな人間性を備えていくことに生きがいを感じるようになる。2024年子ども育成特化型クラブ「犬山テニスクラブ」を創設。主な資格:日本テニス協会公認S級エリートコーチ。法務博士

【HS】ヒューマンスキル

A-17

組織マネジメントにおけるリーダーの
あり方
～AI時代に必要な感情マネジメント～



株式会社アグレックス
西日本CXソリューション部

紙谷 昌弘 P

本講演では、「働きがいの向上」を実践してきたリーダーとしての経験をもとに、チームが主体的に動くための「リーダーのあり方」を学びます。心理的安全性を土台に、メンバーの個性を活かし、信頼関係を基盤とした協働の環境を整えることで、組織やプロジェクトの推進力は飛躍的に高まります。AI時代において人にしかできない感情マネジメントの重要性にも触れながら、リーダー自身のマネジメント力向上はもちろん、組織全体のエンゲージメントを高める具体的なヒントや視点を得ることができます。リーダーシップに悩む方、組織力を高めたい方におすすめの実践的な内容です。

【講師略歴】

金融系ITエンジニアとして18年、SE・PL・PMを経験。現在、働きがい向上推進リーダーとして社内のエンゲージメント向上に取り組み、「心理的安全性AWARD2025」シルバーリング受賞。また、キャリアコンサルタント/ライフシフトコーチとして、社内外で一人ひとりが自分らしく軽やかに生きるための支援を行っている

【IN】イノベーション

A-18

オープンイノベーションの進化による
新たな価値創造
～点と点を紡ぎ英知を巡らせるには～



富士通株式会社
オープンイノベーション部 部長

浮田 博文 B

スタートアップ共創プログラム「Fujitsu Accelerator」と、オープンイノベーション施設「Uvance Innovation Studio(UIS)」の実践を軸に、進化するオープンイノベーションがもたらす新たな価値創造の本質に迫る。単なる連携やマッチングを超え、「点と点」を意味ある線へと昇華し、英知が循環するエコシステムはいかに生まれるのか。産業の活性化や新産業創出、都心と地方をつなぐ価値創出のダイナミズムまでを視野に入れ、戦略設計から共創プロセス、事業化への接続までを具体事例とともに紐解く。

【講師略歴】

ネットワークエンジニアとして入社後、米国通信事業者向けビジネスやマーケット分析、プロダクト戦略立案を経験。2007年よりクラウド事業の立ち上げに参画し、世界8拠点への展開を推進。2019年からスタートアップ共創プログラム「FUJITSU ACCELERATOR」を統括。2025年より共創拠点「Uvance Innovation Studio」責任者を兼任

[SS] 社会課題解決

A-19

富士通が描くヘルスケアAIエコシステムの未来

～AIエージェントによる業務変革の実践～



富士通Japan株式会社
ヘルスケア事業本部 シニアディレクター/医学博士

勝田 江朗

日本の医療現場は、医療費の増加、医療従事者の不足、および医療機関の経営悪化といった構造的課題に直面している。これらの課題に対し、富士通は医療業務に特化したAIエージェントを統合的に管理・運用する実行基盤を構築した。本基盤により、受付や日程調整等、従来人手に依存していた業務をAIエージェントが自律的に制御することが可能となる。その結果、医療従事者は診療業務に専念でき、医療機関においては経営課題の改善とサービス品質の向上の両立が期待される。本講演では、AIエージェントによる医療業務変革の最新線および次世代ヘルスケアAIエコシステム的具体像について述べる。

【講師略歴】

富士通にて電子カルテデータを活用したAIエンジンの開発や医療機関との共同研究を主導。コンサルティング企業にて、医療、製薬などの事業開発に従事。医学博士を取得後、大学での教育や研究に携わる。現在、富士通にてヘルスケア領域での生成AIおよびAIエージェントでのオファリング開発の責任者として推進している

P2M資格制度

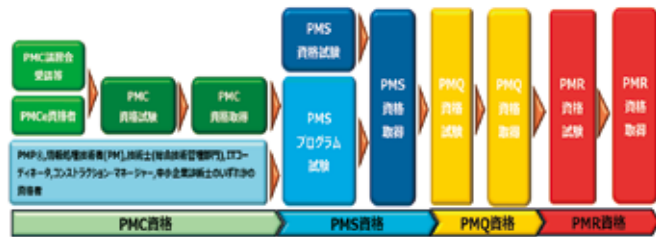
PMQ新設

『知識』～『実践力』を認定する資格に挑戦!!



P2M資格試験は、改訂4版P2M標準ガイドブックの内容に準拠して出題されます。PMAJでは、各試験に対応した試験対策講座や無料セミナーも開講しています。詳しくは協会HPをご覧ください。

P2M資格試験のロードマップ



P2M資格体系

略称	資格名称	資格取得のメリット	認定
PMR	プログラマネジャー・レジスタード Program Manager Registered	企業の枠を越えて、新規性・創造性のあるプログラム、複雑で難度の高いプログラム、社会的影響度の高いプログラムの新規プログラムを創出できる。	実践力
PMQ	プログラマネジャー・クオリファイド Program Manager Qualified New	企業内での既存事業拡大・高度化、既存業務の効率化等、事業方針に沿った新規プログラムの創出ができる。	
PMS	プロジェクトマネジメント・スペシャリスト Project Management Specialist	プログラムの共通観を持って全体最適化を図りプログラム、プロジェクトを完遂する能力を有する。	知識習得
PMC	プロジェクトマネジメント・コーディネータ Project Management Coordinator	効率的、効果的にプロジェクトを遂行でき、上司への進捗・課題の報告、お客様への報告・折衝ができるようになる	
PMCe	プロジェクトマネジメント・コーディネータ・エントリー Project Management Coordinator entry	学生時代から一貫した生涯学習の機会を提供 ※PMCの受験資格、学生に限る	

詳しくはホームページをご覧ください

2026年度PMセミナー開催

関西PMセミナー
2026年6月5日(金)
大阪 マイドームおおさか

中四国PMセミナー
2026年10月23日(金)
広島 YMCA国際文化センター

九州PMセミナー
2026年12月4日(金)
福岡 電気ビル共創館

沖縄PMセミナー
2028年開催予定(隔年開催)
那覇 未定

各地域のPMセミナーを開催し、地域の情報を日本全国に発信!!



北海道PMセミナー
2026年7月3日(金)
札幌 札幌市市民交流プラザ

東北PMセミナー
2026年5月15日(金)
仙台 フォレスト仙台

P2Mセミナー～新しい教養～
2026年11月13日(金)
東京 タワーホール船堀

新春PMセミナー
2027年1月29日(金)
東京 タワーホール船堀

中部PMセミナー
2026年10月9日(金)
名古屋 ウィンクあいち

地図出典：イラストストック

特別講演 SP-21 ビジョンを社会実装する価値創造 OS「P2M」

～生成AIが加速させる実務家博士(DBA)の育成～

12:45～13:45

国際P2M学会
会長亀山 秀雄 

2026年の第7期科学技術・イノベーション基本計画を背景に、多くの学会が純粋な学問の発展から「社会課題の解決」へとビジョンを大きく転換している。その複雑な社会実装を駆動し、複数のプロジェクトを束ねて価値を創造する「共通OS」として、P2Mの手法が不可欠になっている。しかし、P2Mを実践・理論化できる高度専門人材(社会人博士)は圧倒的に不足しており、多忙な実務家にとって大学院の壁は厚

いのが現状である。この課題を解決するため、生成AIを活用した「プレスクール」がPMAとIAP2Mの連携により構築された。そこでは、AIを壁打ち相手に実務家の経験を学術的な問いへ変換し、実践知を重視する「実務家博士(DBA)」の育成を支援している。本講演では、研究成果を社会実装するための科学技術推進OSとしてのP2Mの必要性と有効性を解説した後に実務家博士(DBA)の育成についても触れる。


【講師略歴】

1979年 東京大学 工学博士 取得。1982年 東京農工大学工学部化学工学科助教授。1993年 同 教授。2005年 同 大学院技術経営研究科教授(兼務)。2015年 同 退職。名誉教授。2018年 (一社)水素エネルギー協会会長(現在名誉会員)、(独法)環境再生保全機構(ERCA)プログラムオフィサー。2023年 (一社)国際P2M学会会長、(公財)化学工学会名誉会員、ERCA社会実装支援コーディネーター

特別講演 SP-22 AI時代のPMに必要な「つながる力」

～製薬業界の企業の壁を越えた実践型コミュニティ～

14:00～15:00

ノバルティスファーマ株式会社
Global Program Management Manager 篠崎 丈弘キッセイ薬品工業株式会社
開発統括部 マネジャー 河合 明日香 

AI時代を迎えた今だからこそ、人と人、人と知、アイデアとアイデアをつなぐ対話の価値が一層高まっている。製薬業界の医薬品開発プロジェクトは、高度な専門性、多様なステークホルダー、不確実性の高い環境を特徴とし、一社内に閉じた知のみでは得がたい知見や視点がプロジェクト推進の鍵となる場面も多い。PP&M(Project Planning & Management)フォーラムは、創設から約30年、製薬業界で活躍する

PMをつなぐ共創と学びのCommunity of Practiceとして、企業の壁を越えた対話と実践知の創出を重ねてきた。企業の壁を越える学びの場は、個人と組織の双方に新たな気づきと行動をもたらす。本講演では、PP&Mフォーラムの前代表と現代表が、その歩みとこれからのビジョンを通して、AI時代のPMに必要な「つながる力」を考察し、越境する学びの場の価値と、対話・心理的安全性の実務的意味を共有する。

【講師略歴】


篠崎 丈弘: 製薬業界にて20年以上従事。国内製薬会社を経て、現職企業にてプログラムマネージャーとしてグローバルプログラム推進を担う。PP&Mフォーラムでは2012年より活動を開始し、2021年から2026年1月までPP&Mフォーラム代表を務める
河合 明日香: 製薬企業に入社以来、新薬の臨床開発業務に従事。2014年にプロジェクトマネジメントに出会い、PP&Mフォーラムでの活動を開始。2026年1月よりPP&Mフォーラム代表

特別講演 SP-23 失敗しない「人と組織」

～組織文化の劣化が生む事故・不祥事への本質的対策～

15:15～16:15

元・東京電力HD安全啓発・創造センター所長

小池 明男 

「企業文化は戦略に勝る(ドロッカー)」と言うように、組織文化の良し悪しが企業業績や安全、品質、社員エンゲージメントなど、あらゆるものを大きく左右する。さまざまな事故・不祥事の根本原因追究の結果、歪んだ思考・行動習慣が組織の「当たり前」になり、「あるべき」ルールやパスから無意識に逸脱させる共通構図が明らかになった。こうした原子力事故の教訓をふまえ、全社員一人ひとりの意識・行動変革に

取り組んだ責任者が、本音の対話による気づき、はら落ち、習慣化などの支援技術を駆使し、社員の自律性や成長意欲を高める組織文化づくりを効果的に行う方法を、経験に基づき詳しく解説する。これは、業種を問わず、人的資本経営を進める経営者、日々の職場運営にあたるミドルマネジメント層、必見のトピックである。

【講師略歴】

東京大学法学部を卒業後、1987年 東京電力(株)入社。主に経営企画や営業を担当。2011年の震災・事故以降、経営を補佐し、安全啓発施設「3.11 事実と教訓」の整備、教訓浸透の全社員研修を通じ、組織文化変革に取り組む。2022年、同社を退職後、独立。著書「失敗しない「人と組織」」(2025年)

特別講演 SP-24 アルマ望遠鏡で見るAI時代の学術プロジェクト

～知の探求における価値の源泉を考える～

16:30～17:30

自然科学研究機構国立天文台
アルマプロジェクト/主任研究技師菊池 健一 

標高5,000mのチリ・アタカマ砂漠に展開する「アルマ望遠鏡」は、日本を含む東アジア、北米、欧州南天天文台の加盟国と建設地のチリを合わせた世界20以上の国と地域が協力して運用している大型国際学術プロジェクトである。本講演では、アルマ望遠鏡の科学成果やマネジメントを概観するとともに、AIを用いたデータ処理等の最先端事例を紹介する。さらに、アルマが策定した生成AI使用ポリシーを紹介し、それ

がプロジェクトマネジメントに投げかける根源的な問いを考察する。AIが観測提案を書き、データ解析を行い、論文を執筆する時代において、知の探求とは何なのか? 価値の源泉はどこにあるのか? 大会テーマ「人が動かす、未来へつなぐ社会を創る」を軸に、学術プロジェクトの最前線から見えるAIとの関係を整理し、未来を創るP2Mのあり方を考えたい。

【講師略歴】

東京都立大学大学院博士課程修了。1999年に宇宙開発事業団(現宇宙航空研究開発機構)研究員。以来、サブミリ波帯受信機の開発・研究に従事。2007年に産業技術総合研究所、2011年に情報通信研究機構を経て、2014年に国立天文台主任研究技師に着任し、アルマプロジェクトのプロジェクトコントローラを務める。博士(理学)

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

B-01

航空・宇宙製品開発におけるプロジェクトマネジメント

～機械製品(プロダクト)はプログラムそのもの～



浦 広道 **W**

株式会社 第一システムエンジニアリング
執行役員 航空・宇宙事業部長

航空・宇宙産業におけるマネジメントについて、システムエンジニアリング、エンジニアリングマネジメント、プロジェクトマネジメントなど、関連するマネジメントの変遷、適用された内容などを時代背景も含めて紹介するとともに、これらマネジメントとアポロ計画のかかわりについても製品開発の時系列に沿って紹介する。また、実業務として開発試作から量産、用廃まで全てのマネジメント業務を経験担当した航空機搭載誘導機器の設計開発を事例として、機械製品開発というものがP2Mのスキーム、システム、サービスの3つのモデルに適合することを、自身の経験も交えてP2M的なアプローチで説明する。

[講師略歴]

1985年 株式会社第一システムエンジニアリング入社。客先である国内重工業にて航空・宇宙関連製品の開発事業に従事。30数年にわたり航空機搭載誘導機器のシステム設計ならびにプロジェクトマネジメント業務を担当。航空・宇宙事業部長を務める

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

B-02

大学の医薬品実用化研究を担うプロジェクトマネジャーの役割と育成



菊地 佳代子 **W**

藤田医科大学
橋渡し研究統括本部 橋渡し研究シーズ探索センター・特任教授

世界的にみても、医薬品の創薬開発の品目の約80%はベンチャーが担っている。これらのベンチャーには、アカデミア発ベンチャーも含まれ、アカデミア内での実用化研究も増えている。日本においても、政策として、基礎研究から実用化研究につなげる橋渡し研究支援拠点や臨床研究中核病院が整備されている。実用化研究では治療効果の高さだけが価値ではないことから、ミッションプロファイリングの概念活用が効果的である。

本講演では、大学等での医薬品開発の現状とP2Mの活用方法、そこに関わるPMとスタディーマネジャー(StM)の役割や育成状況、学会でのPM/StM認定制度等について紹介する。

[講師略歴]

薬学部卒業後、製薬企業の学術部及び臨床開発部に勤務。東京医科歯科大学博士課程で医療経済学を学ぶ。その後、慶應義塾大学、国立成育医療研究センターにて、臨床試験のPMを担当。2023年4月から現職。その他、慶應義塾大学医学部非常勤。医学博士(慶應義塾)・薬剤師・PMS・ARO協議会PM認定・StM認定、臨床試験学会検定StM

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

B-03

PMAJのオリジナルであるP2Mを多くの人に活用していただくには

～P2Mの普及推進の課題と取り組みについて～



藤澤 正則 **P**

PMAJ会員活動
P2M普及・推進部会

本講演では、3つの内容を話します。一つ目は、P2M普及・推進部会の活動成果とP2M普及の課題となる「わかりやすい・つかいやすい・成果が出る」への課題を共有します。二つ目は、「P2Mを仕事に活かしている方々」の実務事例の分析から、「自己流」から「仕組み」へ変えるを「価値」「構造」「人」の視点から解説します。三つ目は「超やさしいP2Mの使い方」の資料を活用して、高校生のイベントや中小規模製造業の業務改革、「食べる、住む、暮らす」という日常の無意識な行動がプログラムの原石であることを解き明かし、自ら考え価値を創造するP2Mの本質を提示し、実践者が明日から活用できる視点を提供します。

[講師略歴]

1985年食品メーカーに入社後、40年間、食品製造業、建設業、卸売業の施工管理、技術支援、経営改善などのPJに関わる。現在、中小規模の食品製造業が主たる分野で業務を行う。P2Mの実践経験は20年間で46件。PMS(2001年)PMR(2005年)PMAJ優秀貢献賞(2019年)PMAJ理事(2023年～)P2M普及・推進部会部会長(2023年～)

[PR] プログラムマネジメント (P2M) 実践

B-04

「個」のチャレンジを「面」の進化へ

～プロジェクト統合で拓く、新サービス創出のヒント～



浅井 守 **B**

ビジネスエンジニアリング株式会社
ソリューション事業本部デジタルエンタプライズ本部

先行きが不透明な情勢の中、イノベーションによる社会課題解決への期待が高まっています。その原動力となっているのが、生成AIをはじめとしたデジタル技術の浸透です。技術による企業価値の向上が強く求められる一方で、人と組織、そしてプロセスがその進化スピードに追いついていないのが実態ではないでしょうか。価値向上のためには、個々のチャレンジを「プロジェクト」として捉え、統合していくことが有効です。本セッションでは、技術を確かな価値へと転換し、新事業の立ち上げや生産性向上を実現するためのヒントをお伝えします。

[講師略歴]

2000年ビジネスエンジニアリング入社。製造業の基幹業務システム構築に従事し、SAP ERPアプリケーションコンサルタントとして生産/原価管理の要件定義・導入・保守タスク、プロジェクトマネージャーとしてグループ展開や会社統合を経験。近年は、蓄積された業務データの利活用を推進する新規サービスの事業開発を推進している

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-05

全員ミニPM時代におけるPMの役割

～AI時代に必要な能力と考え方～



下岡 優斗 **P**

株式会社ジゴワッツ
取締役

AIの進化により「AIができること」が増えてきている一方で、「人間の役割」は大きく変わりつつある。開発チームのメンバー全員に「タスクを適切に分割し、複数のAIエージェントに的確な指示を出し、成果物をレビューする。そしてそれらを一つのプロダクトとして形にする力」が求められるようになる。つまり、各々が複数のAIメンバーを抱えるPMのように振る舞う「全員ミニPM時代」がやってくる中で、本来のPMにとっては交渉と意思決定という役割がより重要になってくる。そのような時代においてPMに必要な能力や考え方について検討していく。

[講師略歴]

茨城大学工学部電気電子工学科卒業後、ソフトウェア開発会社に入社。2018年より個人事業主として活動すると共に、2社の創業・立ち上げを経験。9年間に渡りWEB・モバイルアプリ開発に従事。2023年より株式会社ジゴワッツに参画し、ハードウェアからソフトウェアまで幅広く開発に携わる。2025年4月より同社取締役就任

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-06

行政プロジェクトを動かす「組織と情報」の設計術

～構造化と心理的安全性で現場が変わる～



佐藤 友莉 **P**

デジタル庁
プロダクトマネージャーユニット ユニトリリーダー

行政プロジェクトは、なぜ難しいのか。民間とは異なる組織構造・意思決定プロセス・多重の利害関係者など、公共プロジェクト独自の難しさを言語化した上で、マイナポータルや医療DX案件のPMとして実践した経験から「何が機能したか」を語る。情報の構造化・可視化といったハード面の管理に加え、心理的安全性の醸成とフィードバックループの設計が、チームの創造性とプロダクト品質を同時に高める。行政プロジェクトに関わるすべての人に向けて、現場で活かせる視点をお届けする。

[講師略歴]

デジタル庁プロジェクト/プロダクトマネージャー。Slerや事業会社など民間企業で大小さまざまな開発経験を経て2022年より現職。マイナポータルの開発統括PMとして、複雑な利害関係を持つ多数の関係府省庁・自治体・開発事業者と連携し、UI/UXの全面リニューールを成功させた。現在は医療DXプロジェクトのPMを担う

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-07

プロジェクト変革：北米最新動向と日本に適したアプローチ

～生産性向上の手法 AWP・PMDXの可能性～



PMAJ会員活動
PMDX-AWP SIG

高橋 良宜 W

建設プロジェクトの設計・調達・製造・工事をデジタル技術を用いてワークパッケージ化、統合管理することで、プロジェクト全体の生産性を飛躍的に高める手法がAWP(Advanced Work Packaging)です。提唱団体CII(Construction Industrial Institute)によれば、AWPの適用により10～15%の効率改善が期待されています。本講演では、北米で進むAWP・PMDX(Project Management DX)の最新動向を紹介するとともに、日本・アジアの企業文化に適した実践の考え方や課題、今後の可能性を解説します。エンジニアリング業界に限らず、建設・製造業など幅広い分野の方に、新たなプロジェクト変革のヒントをお届けします。

【講師略歴】

三菱重工業(株)入社以来、プロジェクトマネジメントに従事。化学プラント(사우ジアラビア、シンガポール、米国)と交通システム(台湾新幹線)のプロジェクトを担当後、スケジュールグループ長、プロジェクト部 次長を経て、主席プロジェクト統括。2024年から一般社団法人プロジェクト管理デジタル変革協会・AWP 実践共同体 理事

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-08

人は増やさず品質を上げる！
難局打開の力

～AI技術論だけではない、普遍的なPMの介入価値～



人材サービス企業勤務

加藤 壮一 W

「人を増やさず、品質を上げろ、監査に耐えよ」。数百億円規模の公共事業で課された難題に、外部PMとしていかに挑んだか。350ページの規定解体で対応時間を90%削減しつつ、AI時代を見据え人間が判断し責任を負う統制モデルを構築。当初は外部人材への期待が限定的だった組織で、この実績により信頼を獲得。数百億円規模の戦略的提案まで任せられ、AIに懐疑的だった管理者の意識さえも変容させた。本講演では、AIの特性を冷静に見極め、プロジェクト全体に最適な仕組みをデザインする。それは特別な技術論ではなく、実は極めて普遍的な「PMの介入価値」に帰結することを提示する。

【講師略歴】

COPC 推進や人材開発を経て公共領域のPMへ。行政の大規模プロジェクトを牽引する中、直面した現場課題を解決すべく、非IT出身ながら自らAIエージェントを構築し業務変革を実行。技術論に偏らず、人とAIの適材適所をデザインし、人を増やさず品質を上げるPMの介入価値を体現

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-09

人起点発想によるAI共創DX

～AI活用は価値創出段階に～



Ridgelinez株式会社
Digital Strategy & Transformation Practic

伊藤 清隆 P

生成AIの普及により、企業のDXは効率化中心の段階から、価値創出を競う段階へ移行しています。本講演では、人起点の発想を軸に、これまで数多くのクライアントで生成AIを活用した業務変革、AI戦略策定やAIプラットフォーム構築策定の支援から培ってきた実践知をもとに、AIを創造性を引き出す共創パートナーとして再定義します。人とAIが協働する新たな業務・開発の姿として、Vibe コーディングを含むToBeモデルも提示します。

【講師略歴】

2020年Ridgelinez創業メンバー。エネルギー、金融、製造、情報通信、不動産など幅広いクライアントに対し、IT戦略策定/ITガバナンス/EAや生成AIの社内実践・業務定着化に取り組み、富士通全社DX支援や社内基幹系構築からの独自の実践知を活かした企業変革・DX支援のコンサル実績多数

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-10

アジャイルをチームから組織へ

～日本の特性を生かす組織アジリティの向上～



PMAJ会員活動
組織アジリティSIG

小原 由紀夫 W

これまで、要件の「全てを」「完璧に」「納期までに」「予算内で」達成するウォーターフォールが主流であったが、変化に柔軟に適應するため「コストと納期を固定」として「要件を可変」とするアジャイルがPM標準に採用された。アジャイルはマインドセット(考え方)であり、日本の1980年代の実践知を媒体としている。AIの進化スピードに適應するため、アジャイルマインドセットをチームから組織に拡大する必要があり、PMIはMANIFESTO For Enterprise Agilityを宣言した。本講演では、PMAJ組織アジリティSIGの研究成果に基づき、日本の特性を生かした組織アジリティの向上を提言する。

【講師略歴】

個人コンサルタント。グローバル500社の組織変革に貢献したケイデンスマネジメント社認定講師。2022年まで富士通株式会社にてDXに必須なアジャイルを社長～統括部長600名にリスクリングし、ビジネス創成・組織変革の共通認識を確立。PMAJ編「アジャイル開発への道案内」他を共著。PMP、SPC

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-11

『秘密のエピソード』から学ぶ
共創の秘訣

～「ものがたり」研究会・創刊号の紹介～



PMAJ会員活動
PMノウハウ継承研究会SIG 藤田 亜樹子/新谷 幸弘/水村 泰明/中谷 一樹/吉野 均 W

まず、「実践的な知恵を伝える『ものがたり』集・創刊号」(2025年8月発刊)の概要をご紹介します。次に、『秘密のエピソード』(超短編の『ものがたり』)の最新作3話をお披露目します。1話目では、大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオンにおける「超・多主体」の厳しい制約下でのプロジェクトを、成功に導いた異業種共創の秘訣を伝えます。2話目では、中規模企業のリーダが大企業との開発で意思決定の遅さや責任分界の曖昧さなどに翻弄されながらも上下関係から共創関係に転じた秘訣を伝えます。3話目では、リーダ達がCCPM適用でPMを変革し、経営基盤の刷新を目的とする超大規模ERP導入プロジェクトを成功させた共創の秘訣を伝えます。ご堪能ください。

【講師略歴】

藤田 亜樹子: BIPROGY株式会社 グループ内部監査部長/新谷 幸弘: 千葉工業大学教授(技術経営・先端技術の社会実装研究室主宰)/水村 泰明: AJS株式会社 インダストリービジネス事業部 技術・開発部/中谷 一樹: TISI株式会社 品質本部/吉野 均: 物語りラボ代表兼PMAJ理事、PMノウハウ継承研究会SIG代表

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-12

国連・欧州標準PRINCE2の最新動向と
大規模アジャイル実践事例



PMAJ会員活動
PM研究・研修部会

尾形 順一 W

国連・欧州のプロジェクトマネジメント標準PRINCE2は、PMBOKと並びグローバルベストプラクティス、デファクトスタンダードである。本講演では、PRINCE2最新版の概説及び大規模アジャイル事例を紹介する。最新版では4つの特徴、①「人」がプロジェクトを動かすためのリーダーシップやマネジメント、②「原則」の7つの基本ルール、③「プラクティス」のプロジェクトで管理すべき7領域、④「プロセス」立ち上げから終結までの7ステップがある。これらを概説していく。加えて、PRINCE2を応用した大規模アジャイルプロジェクトの実践事例について、失敗と教訓を含めて紹介する。

【講師略歴】

ビジネスとDXを成功に導く、プロジェクトマネジメント・大規模アジャイルの専門家。総合コンサルティングファーム パートナー、私立大学教員、PM研究・研修部会員。日立製作所、ゼロイト トーマツ コンサルティングを経て現職。セミナー講演、コラム・事例記事多数。PRINCE2 Practitioner, PMS, PMP 他20以上

【BS】戦略及びビジネスマネジメント

B-13 データとAIで進化する
プロジェクトマネージャ育成



富士通株式会社
Project Management Division長

伊藤 健太郎 P

人口減少やプロジェクトマネジメント人材の高齢化、マネジメントの担い手が減少する環境下において、プロジェクトマネジャーは事業・信頼・変革の中核を担う存在として、その重要性を一層高めている。本講演では、デジタル化したデータを起点としたプロジェクトマネジャー育成と、価値創出に直結するアサインの考え方、プロジェクトマネジャーの役割と魅力を再定義する取り組みを紹介する。さらに、生成AIによる判断力・推進力の拡張を取り込み、プロジェクトマネジャーという職能を進化させる組織的アプローチを提示する。

【講師略歴】

2001年富士通入社。基幹系を中心に大規模プロジェクトでPM・アーキテクトとして従事。Japan Regionにおけるクラウド技術普及および業種横断事業創出の推進を経て、現在はProject Management Division長としてPM人材育成と変革をリード

【BS】戦略及びビジネスマネジメント

B-14 生成AIを活用したサービスデスク変革
～実践事例から学ぶアプローチ～



エフサステクノロジーズ株式会社
カスタマーサクセスセンター

山日 麻衣 W

当社は、ハードウェアソリューションのトータルプロバイダーへの変革期を迎えている。その中でも、サービスデスクはお客様への「価値創出ツール」として再定義することが急務である。本セッションでは、生成AIプラットフォームを導入した実践事例を紹介する。PoCを通じてその有効性を検証し、AI適用範囲特定、データクレンジング、プロンプトチューニングといった具体的な運用課題を克服、実践知見を標準化した。これらによる、人依存からの脱却と持続可能なサービスモデルへの変革プロセスを共有する。

【講師略歴】

2021年より、エンドユーザー向けサービスデスクの運用・管理を担い、ITサービス運用改善・新規事業創出に従事。現在は、生成AIプラットフォームを用いたAI社内実践プロジェクトに参画。その知見を活かし、サービスの事業化、顧客提案、社内外連携強化に貢献

【HR】人財育成・働き方改革

B-15 プロジェクト成功率を高める
「第三者俯瞰支援」の仕組み
～プロジェクトメンター導入戦略～



株式会社プロジェクトメンターコンサルティング
代表取締役

加藤 裕昭 P

組織内において複数のプロジェクトを安定して成功させるには、プロセスの確立と人材教育が大切であることは疑いようがない。しかし、それらを実践しているにも関わらず混乱プロジェクトが発生してしまうのはなぜか。企業で長年に渡りプロジェクトの現場を指揮・指導してきた経験から、リアルな現場に存在する隠れた問題を浮き彫りにする。そこには、プロジェクトを支援するべき管理者や組織が、困らざるも実はその成功を阻害していることがあるという実態がある。本講演では、その根底にある原因と、それを解決するための手段としてプロジェクトメンターという第三者俯瞰支援の仕組みづくりを解説する。

【講師略歴】

大手企業において情報制御システムや製品の設計・開発に従事し、約30年間多様なプロジェクトの運営・管理・指導を経験。第三者の立場で300以上のプロジェクトを俯瞰的に支援し、単一のみならず複数プロジェクトの成功率を高める仕組みへの知見を深化。これを体系化した株式会社プロジェクトメンターコンサルティングを創業

【HR】人財育成・働き方改革

B-16 教育現場における次世代リーダー育成
～日米を拠点にした変革人材育成の実践～



アパナード株式会社
レスポンスルビビジネス リード (コーポレートシチズンシップ リード) 日野 紀子 B

お茶の水女子大学、奈良女子大学や高専で実施している「未来は創れるーソーシャルイノベーション」講座、高校生向けのグローバルキャリア開発として行ってきたNY修学旅行、教育系NPOの創立および組織運営など、日米を拠点に人材の可能性を引き出す取り組みを継続してきた。本講演では、これらの実践を通じて、社会課題に向き合う体験がどのように個人の行動変容を促し、次世代を担うリーダーとしての成長につながっていくのかを、具体的な事例をもとに紹介する。あわせて、NPO設立に至った背景や、チェンジメーカーとして自立していくために求められるスキルやマインドセットについても取り上げる。

【講師略歴】

日米を拠点に企業・教育・NPOの立場から、社会課題に自発的に挑むチェンジメーカー育成とソーシャルイノベーション創出に20年間尽力。アパナード(株)コーポレートシチズンシップリード、お茶の水女子大学・奈良女子大学客員講師、ニューヨークの非営利法人NY de Volunteer 創立者・理事。成長マインドセットやikigaiある豊かな生き方を提案。モットーはIt's up to you! 既存の価値観に縛られず「自分版の幸せ」を元気にのびのびと

【HR】人財育成・働き方改革

B-17 事業やプロジェクトのチームワークが
苦しくなる理由と方策
～心理的安全性のその先へ～



一般社団法人リプロキャリア
代表理事

平 陽子 P

【対象者】事業・組織・プロジェクトを担い、チームワークの課題を前向きに解決したい方。

【概要】製造業・IT企業の責任者やPMは戦略、進捗、リスク、利害調整など、常に「正しいこと」を求められる一方、意思決定の遅れや議論の不全、後出しの反対といった課題に直面しがちである。本講演では、それらを個人のスキルやリーダーシップの問題ではなく、関係性や暗黙の空気、役割期待のズレなどチームワークの問題として捉え直す。対話による組織力強化の支援を行ってきた筆者が、対話を通じ、チームワーク不全がどのように生まれ、どう変化していくのかを具体事例とともに解説する。

【講師略歴】

富士ゼロックス(富士フイルムビジネスイノベーション)を経てリクルートおよびグループ会社にて、IT業界や製造業の人材支援に従事。その後、対話による組織力強化を支援する一般社団法人リプロキャリアを創業。主に「チームコーチング」を始めとした多様な手法を用い、事業部やプロジェクトの活性化を得意としている

【HS】ヒューマンスキル

B-18 ユーザーの真のニーズを解明せよ!
～要求定義の確度向上アプローチと実務適用～



住友ファーマ株式会社 IT&データアナリティクス部
データアナリティクス&デジタルソリューショングループ

坂本 光 B

変化の激しい現代において、市場での競争優位性の確立にはユーザーニーズを捉えたプロダクトの継続的な提供が求められる。一方で、ユーザーの「真のニーズ」は自身も言語化できていない場合が多い。そのため、ユーザーの潜在的なニーズを解明可能なデザイン思考は、不確実性の高い要求定義フェーズの確度を高めるアプローチとして重要である。本講演では、デザイン思考の具体的な実践的な活用方法および実務への適用事例を解説し、DX推進におけるプロジェクトマネジメントの実践的アプローチとしての有効性を考察する。

【講師略歴】

製薬企業での創業研究、日用品卸での社内SEを経験後、2024年に住友ファーマに入社。現在は同社の内製チームにて、研究、IT、デザイン思考の知見を活かし、社内DXプロジェクトの企画、システム/ツール開発・運用、AWS利用環境の改善等に取り組む

[HS] ヒューマンスキル

B-19

ステークホルダーのエンゲージメントを高める

～影響力の法則(R)によるステークホルダーマネジメント～



株式会社プロジェクトマネジメントオフィス
代表取締役

鈴木 道代 P

プロジェクトにおいて、ステークホルダーの協力は欠かすことができない。ステークホルダーのエンゲージメントを獲得し、支援してもらえるかどうかによって、プロジェクトの成否が決まると言っても過言ではない。本講演では、ステークホルダーマネジメントの概要と、ステークホルダーエンゲージメントを獲得するために有効な「影響力の法則(R)」の6つのステップを紹介する。影響力の法則(R)は、返報性、互恵性の考え方から、カレンシーの交換が重要なポイントであり、どうすれば、カレンシーを見つけることができるのかを、洞察力、コンセプチュアルスキルの観点から解説する。

【講師略歴】

アパレル企業に入社し、データベース管理者、システムエンジニアとして社内システムの開発・マネジメントに携わる。その後、株式会社プロジェクトマネジメントオフィスにて、プロジェクトマネジメント、PMO、コンセプチュアルスキルのコンサルティング、セミナー講師、研修講師を担当し、現在に至る

P2M事業モデルとプリンシプル

P2M事業モデル



PMAJの会員活動のご紹介

PMAJ会員には各種特典がありますので、是非ご入会ください。

部会 会員活動 (又は「場」の提供) の中核となる活動
継続的な企画・運営を行います

例会部会

月例講演会を通じて、有益かつ時機を得たPMビジョン・戦略、手法、実践事例などの話題提供ならびに会員交流の機会を提供しています。

APC (Advanced PMR Club)

PMRの認知向上活動およびPMRによる価値創造活動を通じて相互啓発し、プログラムマネジメントの普及促進を図ります。

PMシンポジウム部会

PMシンポジウムを開催し、国内外のPMビジョン・戦略、実践事例などの発表と知識講習・スキル向上講習の機会を提供しています。

P2M普及・推進部会

PMAJの活動の理論的基盤である「P2M体系」の一般社会への普及・促進のための活動を行います。

PM研究・研修部会

Project Management Institute (PMI)® を中心として、海外発のPM体系・手法を基本としたPM研修事業を実施しています。

交流会 (P2Mクラブ)

PMを志す仲間相互の情報交換と自己啓発の場です。関心の高いテーマについて話題提供頂き、それを起点に活発な質疑で理解を深めます。

地域PM研究部会

各地域に研究部会を組織し、それぞれ会員活動を展開しています。



SIG (Specific Interest Group)

プログラム・プロジェクトマネジメントの特定領域に関する活動
PMの特定領域に関して 会員有志が結成する自主研究・開発・普及グループです。

Wtech. SIG

Web3.0の勉強会を幅広く開催し、昨今ではAIエージェントを中心に実装方法やPMでの活用事例など、実践に役立つ勉強会を毎月第3木曜日に開催しています。

チェンジマネジメント SIG

業界・業務を問わず変革プログラムを成功させるための方法論を整備し、P2Mのプログラムマネジメントの価値を高め、企業の推進するプログラムの成功確率を向上させることを目的としています。

博士人材と指導教員の醸成 SIG

博士学位取得を目指したい方が安心して学修できる環境を整え、国際P2M学会との協働支援体制のもと、高い専門性と汎用的能力を有する人材として活躍することを後押しします。

組織アジリティ SIG

AIにより企業は激しい変化に直面しています。変化に俊敏に対応するアジャイルとプロジェクトマネジメントにより企業の俊敏性である組織アジリティを向上させることを目指しています

PMDX-AWP SIG

工場の生産効率を上げる手法としてAWPは北米で積極的に活用されています。設計・調達・工事(製造)を計画段階から統合管理する手法であり、DXを活用し、日本・アジアに適した実践を学び提案するSIGです。

P2M標準ガイドブック改訂4版を学ぶ SIG

P2Mの内容を理解し、業務に適用する際のポイントなどを学び、多くの企業人に周知していくことを目的としています。

グローバルPM SIG

グローバルで活動・活躍するPM学習者・実践家・指導者に対し、日本発のP2Mプログラムマネジメントの魅力をアピールする活動を展開しています。

PMノウハウ継承研究会

プロジェクトの失敗が繰り返されるのは、PMノウハウ継承が不十分だからであるとの考えのもと、PMノウハウ継承に役立つ物語を作成し、その物語をPM人材研修に活用する取り組みをしています。

AIエージェント活用PM SIG

AIエージェントを含む先進的なAI技術をプロジェクトマネジメントに効果的に組み込むため、専門的に研究・情報発信・人材育成を行うことを目的としています。

TIS千代田システムズ株式会社

EX-01

Oracle Primavera Cloudを活用した
キャパシティ管理

～不確実性/人材制約/マルチプロジェクト時代の
管理～



TIS千代田システムズ株式会社
事業本部 デジタル事業部 EPMソリューション部 主任

吉田 和弘

近年のプロジェクト環境では、市場・顧客要求・技術進化の変化が激しく、計画時点の前提が途中で崩れること自体が前提となりつつある。そのため、需要を事前に見通し、供給とのギャップを早期に把握することが成功の重要条件である。人材不足とスキル偏在が進む中、人数ではなくスキルを持つ人材も制約となっている。本講演ではマルチプロジェクト環境を前提に、横断的に需要と供給を可視化するリソースキャパシティ管理を紹介する。

【講師略歴】

業務システム開発エンジニアとしてキャリアを開始。パッケージ製品(Primavera P6 Professionalなど)導入支援や基幹システムとパッケージ製品のI/F設計・開発を行う傍ら、パッケージ製品の環境構築や製品トレーニング講師を担当。近年は、Oracle Primavera Cloudの導入支援にも取り組んでいる

株式会社アジャイルウェア

EX-02

自走するチームをプロデュースしよう

～疲弊しない/させない、次世代PM像の提言～



株式会社アジャイルウェア
テクニカルセールスマネージャー

小林 稔央

プロジェクトの持続価値とは、リーダーが去った後もチームが自走し、価値を生み続けられる状態を指す。そのためには、PMは単なる「管理者」ではなく、メンバーに成功体験を与え、自信を育む「プロデューサー」でなければならない。本講演では、ツール連携やAI活用により管理を徹底して自動化し、現場の負担を軽減する「守りのプロデュース」を詳説。さらに、ビジネスアナリシス(BA)の本質である「真の価値探求」を通じて不毛な手戻りを防ぎ、現場が納得して動ける環境を整える「攻めのプロデュース」を提示する。心理的安全性を土台に、誰が主役として輝ける現場の創り方を共有したい。

【講師略歴】

大手製造会社で組み込みSWのPMを務め、8年間トラブル流出ゼロのチーム運営を行った経歴を持つ。また、Redmineエヴァンジェリスト等のコミュニティ活動や、アジャイルウェアを通して、3桁のチームへのDX支援を行った実績がある。夢は悩めるすべてのPMやチームを救済すること。元芸能事務所代表、某カフェオーナー

パナソニック デジタル株式会社

EX-03

P2Mのプロジェクトマネジメント資格を
とろう!

～P2M資格(PMC, PMS)と対策講座のご紹介～



パナソニック デジタル株式会社
HRソリューション営業部

中島 貴代子

当シンポジウム主催の日本プロジェクトマネジメント協会が資格試験を実施している、プロジェクトマネジメント資格「P2M」は、「プロジェクトマネジメント」に加え、新規事業創造に必須の「プログラムマネジメント」の知識も身に付く数少ない資格である。そのためIT技術者だけでなく、エンジニアや営業職、学生など幅広い層がチャレンジしている。ここでは、P2Mの特長のほか、資格体系、試験形式、申込方法や受験資格など、資格取得までの流れを分かりやすく説明する。あわせて、当社のP2M資格試験対策講座シリーズ(eラーニング)を使ったおすすめ学習スケジュールも紹介する。すでにPM関係の資格(PMP®, 情報処理技術者試験、PMC)をお持ちの方にもお勧めしたく、是非ご覧ください。

【講師略歴】

P2M資格試験対策講座には制作から関わり、15年以上販売を担当しています。PM人材育成のご相談をお待ちしております。会社名が4/1から変わりました。引き続きご愛顧のほど、よろしくお願いたします。

▼P2M資格試験対策講座シリーズ

<https://www.panasonic.com/jp/business/its/hrd/projectmanagement/p2m.html>

電脳バンク株式会社

EX-04

設計される知性、進化する組織

～人間とAIエージェントの協働設計が生み出す、
共知組織の競争優位～



電脳バンク株式会社
代表取締役社長

浦田 敏

AIエージェントの経営実装が本格化する今、問われるのは「どう導入するか」ではなく「どう設計するか」です。人間の判断力・創造性とAIエージェントの処理能力・学習速度が有機的に融合した「共知組織」は、次世代競争優位の核心です。本講演では、①会議・業務の経験を組織知として資産化する「知を生む設計」、②AIとの対話が内省・思考・判断力を鍛える「人が育つ設計」、③プロセス最適化により人間が創造的判断に集中できる「組織が動く設計」、④ノウハウ・文化・失敗知を世代を超えて継承する「知が伝わる設計」の4視点から、事例を交えて共知組織の実装を論じます。

【講師略歴】

2000年に東京大学大学院工学系研究科修士課程修了後、富士通へ入社。金融系のシステム開発に従事。PM、技術コンサル、品質保証部門等を経験。2016年からAIやBlockchain等の技術戦略の策定やAI関連事業の創出に従事。AIを活用したSaaS事業の事業部長を経て退社。電脳バンク株式会社を創業しAI関連のサービスを提供中

株式会社マネジメントソリューションズ

EX-05

AI時代におけるPM教育

～PM知識教育と非認知教育の実践～



株式会社マネジメントソリューションズ
PM事業本部 品質横断グループ

横地 真吾/佐藤 美穂

AI時代の到来により、人材育成の核心は「知識」と「非認知能力」の統合へとシフトしています。定型業務が自動化される今、求められるのは単なる知識の蓄積ではなく、それを創造性や共感性といった人間特有の力(非認知能力)で価値に変換する実践力です。MSOLはマネジメント専門会社として、知識を「使いこなす」ための体験型研修を通じ、AIには代替できない判断力と行動力の育成を支援しています。本講演では、知識教育の再定義と非認知能力を軸とした育成の方向性を提示。PMと組織が今取り組むべき、価値創出のための実践的なヒントを解き明かします。

【講師略歴】

横地 真吾: (株)マネジメントソリューションズ 品質横断グループ、元トレーニング事業部長。大規模SEを経て2011年入社。多業種のPM実行支援やPMO認定制度設立を牽引。現在は、PM実践力向上と全社的な品質強化を担っている
佐藤 美穂: 同所属。現場でのPM支援実績を強みに研修開発や講師に従事

プラニスウェア・ジャパン株式会社

EX-06

AIによるプロジェクトマネジメント革新

～プロジェクトマネジメントへのAI適用は
何を変えるのか～



プラニスウェア・ジャパン株式会社
ビジネスディベロップメント シニアディレクター

杉浦 宏実

日本におけるプロジェクトマネジメントは、組織・部門のプロジェクトや業務特性に合わせた効率的、効果的に実施することを志向しているため、方法論・ツールがバラバラとなってしまっている現状がありますが、その結果、プロジェクトはおおむね期待を裏切らない状態で進行し完了しています。ただ、その副作用はあり、プロジェクトマネジメントの標準化が進まず、部門横断・プロジェクト横断の知見が共有されず、不十分な形で属人化してしまうということが起きています。さらに深刻化する人材不足は、本業への配置すら十分にできず、プロジェクトマネジメントに人材を充てることは今まで以上に難しくなります。一方、プロジェクトエコノミーの時代の到来は、プロジェクト数の増加、難易度の向上、今まで以上にスピードを要求されるという状況を生み出し、プロジェクトマネジメント人材の質と量の確保が必要不可欠となっています。プロジェクトマネジメントおよびプロジェクトマネジメント人材の現状と、近い将来に求められるところには大きなギャップがあります。そのギャップを埋めるためにAIがどのようなことができるのか、その具体例について紹介します。

【講師略歴】

30年以上、業種業態を問わず日本企業へのプロジェクト・ポートフォリオマネジメント(PPM)導入にかかわり、その範囲としては、プロセス、体制・役割、システム、教育、定着支援などの広範に亘る。日本プロジェクトマネジメント協会の委嘱講師。その他試験委員、P2M標準ガイドブック執筆委員などを歴任

日本プロジェクトマネジメント協会

EX-07

マイプログラムのすゝめ!

～自分の人生をプログラムマネジメントしてみませんか～



日本プロジェクトマネジメント協会
理事長

加藤 亨

今、我々はCOVID-19がもたらした、百年に一度、千年に一度の大変革期にいます。そんな大変革の中では、変化に振り回されない「内面から湧き上がる想い」からビジョンを描き、そこからバックキャストして課題を特定し、ロードマップを描き、信念を持って進んで行く「使命達成型企業」となることが、生き残りの条件となります。であれば我々一人ひとりも、ビジョンを明確に定め、ロードマップを描き、信念を持って実践して行く「使命達成型職業人」となる必要があります。自分の人生をプログラムとしてマネジメントする「マイプログラム」は、使命達成型職業人の第一歩です。一度実践してみませんか。

【講師略歴】

千代田化工建設(株)入社後、同社の様々な情報化プロジェクトのPMを担当。同社グループ企業の執行役員、取締役、社長を歴任。2019年7月より日本プロジェクトマネジメント協会理事長に就任し現在に至る。
PMAJ公認PMS、米国PMI公認PMP、技術士(情報工学部門、総合技術監理部門)、情報処理技術者試験システムアナリストなど

改訂4版

全国の書店にて販売中

P2M

プログラム&プロジェクト
標準ガイドブック



価値創造型マネジメントのあるべき姿として「P2M事業モデル」を明示し、事業戦略からプログラム～プロジェクトに至る一連のプロセス全体を事例を含めて分かりやすくかつ実践しやすい体系として提供しています

協賛・パートナー企業



お申込み区分と視聴できる講演及び視聴期間

下表の●が付いた講演を記載された期間にご視聴いただけます。

Day	講演種別	視聴形態	視聴期間	お申込み区分					
				早期割引・通常申込			オンデマンド配信のみ (リアルタイム視聴無し)		
				Day1	Day2	2日間 通し	Day1	Day2	2日間 通し
Day1	基調・特別講演	会場参加・ライブ配信	9/3 (リアルタイム)	●		●			
		オンデマンド配信	9/5~10/3	●		●	●		●
	一般講演	オンデマンド配信	9/3~10/3	●		●	●		●
Day2	基調・特別講演	会場参加・ライブ配信	9/4 (リアルタイム)		●	●			
		オンデマンド配信	9/6~10/3		●	●		●	●
	一般講演	オンデマンド配信	9/4~10/3		●	●		●	●

ライブ配信・オンデマンド配信には、Zoomを採用

■事前に視聴環境の確認をお願いします。

ネット接続ができる環境で、PC・スマホ・タブレットなどから視聴できます。(画面はフルHDで配信する予定です。)

視聴にはZoomアプリが必要ですので、お申込みの前に(Zoom提供のテストページ)にて接続テストをお済ませください。

当日、お客様の通信サービスや利用機器、ブラウザなどの影響により、視聴ができない場合、PMAJでも対応ができかねる場合がございますのでご了承ください。

ライブ配信を視聴される場合

■Day1、Day2のライブ講演(基調講演と特別講演)を、会場ではなくリアルタイムのライブ配信で視聴される場合は、申込時に「オンライン参加」を選択してください。

(オンデマンド配信は、「会場参加」と「オンライン参加」のどちらでも視聴できます。)

昼休みイベントへの参加を希望される場合

■昼休みイベント(右ページ参照)への参加を希望される方は、申込時に「会場参加」を選択してください。

「オンライン参加」で昼休みイベントに参加することはできません。(昼休みイベントのライブ配信およびオンデマンド配信はありません。)

ライブ配信・オンデマンド配信を問わず、配信内容の録画、録音、ならびに正規申込された方以外の視聴は禁止とします。

■講演動画の著作権は、講演者およびPMAJに帰属しており、この動画の一部または全部を著作権者に無許可で使用することは、著作権法に反することとなります。

最新情報はPMAJの公式WEBページにて随時更新します。

■詳細情報につきましては、下記URLからご確認ください。

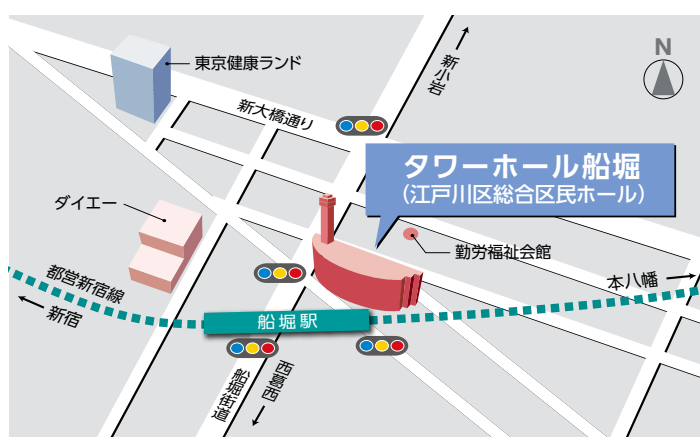


<https://www.pmaj.or.jp/sympo/2026/index.html>

会場ご案内

タワーホール船堀5階「小ホール」の受付にお越しください。

ACCESS >>> 都営新宿線 船堀駅下車 徒歩1分



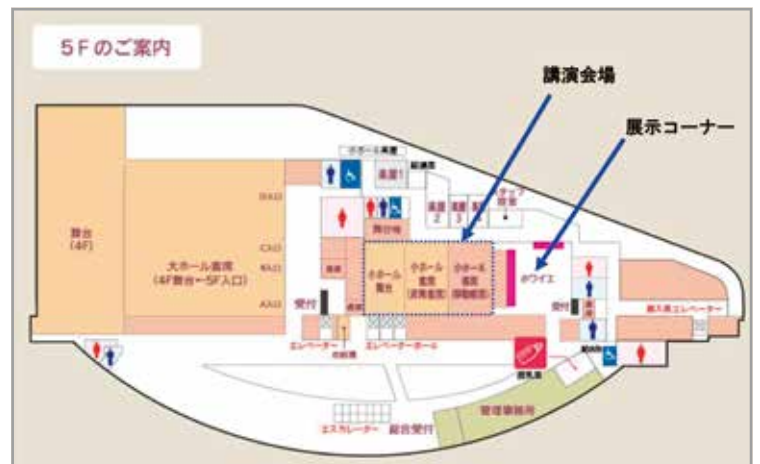
東京都江戸川区船堀 4-1-1 TEL.03-5676-2211

展示コーナー、昼休みイベント、懇親会についてご案内します。

● 展示コーナー(5階「小ホールホワイエ」)

スポンサー企業及びPMAJによる展示を5階小ホールのホワイエにて行います。プロジェクト管理の技法・ツール・ソフトウェアの紹介、PM資格の取得・活用、プロジェクト・マネージャー育成などに関する出版物・教材・資料などが展示されます。お気軽にお立ち寄りください。

なお、スポンサー企業による講演を「共通講演」としてオンデマンド配信します。本パンフレットの15ページに講演概要をご案内しています。PMシンポジウム2026に申しこまれた方は、どなたでも無料で視聴できますので、是非ご視聴ください。



● 昼休みイベント(4階「研修室」・「401」)

Day1およびDay2の昼休みの時間帯を利用して、以下のイベントを開催します。参加を希望される方は、受付システム入力時に、参加希望をマークしてください。

会場参加で申し込まれた方のみ、これらのイベントへの参加希望を受け付けます。(同日に両方に参加することはできません。)

定員制の関係から、ご希望に添えない場合がありますので、あらかじめご承知おきます。

イベントにご参加の方には、軽食をご用意させていただきます。

尚、これらのイベントに、ポイントは付きません。

- 有識者によるパネルディスカッション
12:00~12:30(予定) 会場:4階研修室
テーマ:Day1 AixPM、Day2 P2M

- グラフィックレコーディング作成体験会
12:00~12:30(予定) 会場:4階401

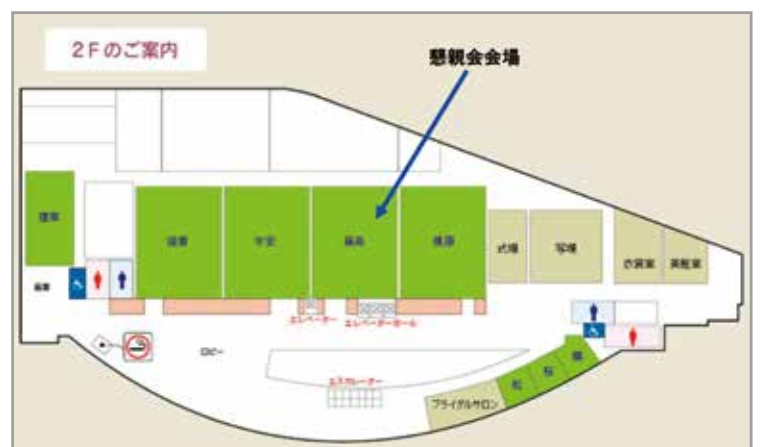


● 懇親会(2階「福寿」)

9月3日(木)Day1ライブ講演終了後の17時50分から、2階「福寿」にて懇親会を開催します。

講師・参加者・PM関係者と交流し、PMコミュニティ活性化の場としてご活用ください。

PMシンポジウム2026にお申込みの方は、どなたでも無料で参加できますので是非お越しください。参加希望の方は、受付システム入力時に「懇親会参加」にマークしてください。



お申込み方法

WEBページにてお申込みを受付けます。『PMシンポジウム2026』のご案内ページをご参照ください。

<https://www.pmaj.or.jp/sympo/2026/index.html>



参加申込み期間・お支払い方法

	早期割引申込	通常申込	オンデマンド配信のみ申込
申込期間	～7月31日(金)	8月1日(土)～8月25日(火)	8月26日(水)～9月30日(水)
支払期限	～8月4日(火)	8月27日(木)	・クレジット払いのみです。 ・申込受付後2営業日以内に決裁願います。 *決済確認後2営業日以内に視聴用URLを送付します。

お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受付確認メールをお送りいたします。

また、お振込み時には、参加者名及び電子メール(受付確認メール)に記載のお申込み番号を必ずご記入ください。

- ※クレジットカードご利用の場合の手続きは、WEBページに記載しています。
- ※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせください。
- ※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもってお申込み願います。
- ※請求書・領収書はすべてメール添付での送付となります。
- ※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。
- ※お申込み後のキャンセル手続きは、WEBページに記載しています。

口座名：三菱UFJ銀行 本店 普通 0737079
 名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
 トクビニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

お問い合わせ

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局

E-mail : admi-sympo-cs@pmaj.or.jp TEL.03-6234-0551 FAX.03-6234-0553

参加費

注) 参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。入会ご希望の方は、下記URLからお手続きください。

<https://www.pmaj.or.jp/kyoukai/nyuukai.html>

(上段：税込価格、下段：消費税10%)

	早期割引 〔～7月31日(金)〕			通常申込 〔8月1日(土)～8月25日(火)〕			オンデマンド配信のみ申込 〔8月26日(水)～9月30日(水)〕		
	Day1	Day2	Day1、Day2 通し	Day1	Day2	Day1、Day2 通し	Day1	Day2	Day1、Day2 通し
PMAJ個人会員	11,990円 (1,090円)	11,990円 (1,090円)	23,300円 (2,118円)	14,000円 (1,272円)	14,000円 (1,272円)	26,000円 (2,363円)			
PMAJ法人正会員の職員	14,500円 (1,318円)	14,500円 (1,318円)	28,200円 (2,563円)	19,000円 (1,727円)	19,000円 (1,727円)	33,000円 (3,000円)			
PMC、PMS、PMR有資格者	17,000円 (1,545円)	17,000円 (1,545円)	33,300円 (3,027円)	20,000円 (1,818円)	20,000円 (1,818円)	38,000円 (3,454円)	25,500円 (2,318円)	25,500円 (2,318円)	48,000円 (4,363円)
ENAA賛助会員/後援・協賛 団体の職員、PMI会員、 ITC資格者、技術士会員	23,300円 (2,118円)	23,300円 (2,118円)	42,600円 (3,872円)	25,000円 (2,272円)	25,000円 (2,272円)	45,500円 (4,136円)			
一般参加者	23,800円 (2,163円)	23,800円 (2,163円)	46,000円 (4,181円)	25,500円 (2,318円)	25,500円 (2,318円)	48,000円 (4,363円)			
学 生	無 料 学生を本分とする方(社会人学生は対象となりません)。要学生証提出。証明書等は発行いたしません。								

*PMシンポジウム2026に参加申込された方は、懇親会は無料です。

Day1 —— 【内容】基調講演+特別講演 会場参加：9月3日、ライブ配信：9月3日／オンデマンド配信：9月5日～10月3日
 一般講演 オンデマンド配信：9月3日～10月3日

Day2 —— 【内容】基調講演+特別講演 会場参加：9月4日、ライブ配信：9月4日／オンデマンド配信：9月6日～10月3日
 一般講演 オンデマンド配信：9月4日～10月3日



PMAJ
 特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
 Project Management Association of Japan (PMAJ)

日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)は、P2Mの資格試験や講習会、PMAJ会員のための定例の勉強会、PM研修、機関誌(PMAJジャーナル)の発行等を通じて実践的PMの普及活動を行っています。
 このPMシンポジウムも会員によるPM実践の場として、多くのボランティアメンバーを交え企画運営されています。